

第一次佐久市総合計画後期基本計画「目標」の進行状況(まとめ)

<色別表示の見方>

■: 目標の推移が「順調」
 ■: 目標の推移が「概ね順調」

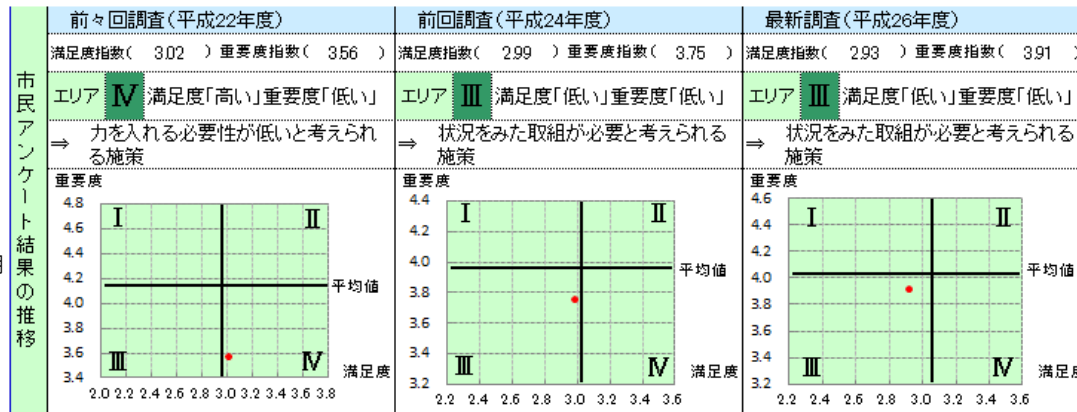
■: 目標への進行状況が「やや遅れている」
 ■: 目標への進行状況が「遅れている」

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
1			貸し館系施設の利用件数	件/年	8,705 [H22]	9,500	目安値実績値評価	8,864	9,023	9,182	芸術文化への関心の高まりや高齢者等の余暇利用から、貸し館の利用件数が増えていると考えられる。	利用しやすい施設とするため、コスモホールの施設修繕を進める。文化事業を実施する者への補助制度(芸術文化活動事業補助金)を継続する。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでほしい。
2	111	文化・芸術	観覧系施設の延べ入館者数	人/年	38,844 [H22]	40,000	目安値実績値評価	39,075	39,306	39,538	平成26年は修理のため、旧中込学校が休館となっており、目安値に大きく及ばなかった。また、旧中込学校を除いた前年度との比較を見ると、平成25年が27,843人に対し平成26年は27,040人と減少しており、休館の影響を除いても目安値の達成は厳しかったと思われる。要因としては天体観測施設の観望会などのイベントが天候に恵まれなかったこと、近代美術館の企画展の来場者数が伸び悩んだこと等が挙げられる。	展示・展覧会の企画を充実させるとともに、講演会やワークショップなどの講座を開催し、入館者の増加に取組む。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてほしい。また、施設ごとのPRの方法も検討してほしい。
3			少年考古学教室参加者数	人/年	67 [H22]	80	目安値実績値評価	70	72	75	当初予定していた体験作業は出土品が少なく、発掘体験は体験が可能な現場がなかったため実施できなかった。代替として指定文化財の見学等を実施したが目標値に達しなかった。	小学校への出土品の貸出などを検討し、埋蔵文化財への関心を高めることにより少年考古学教室への参加者を増やし、「順調」の評価を目指す。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、アンケートを行うなど、参加者のニーズを踏まえ取り組みを進めてほしい。

施策名：文化芸術

- 文化振興のあり方検討
- 既存施設の充実と有効活用
- 市民の文化・芸術活動の促進
収蔵美術品の調査・検討
- 佐久の先人(業績・影響などを残した人物)の調査検討と成果の活用
- 文化財の保護・継承と有効活用



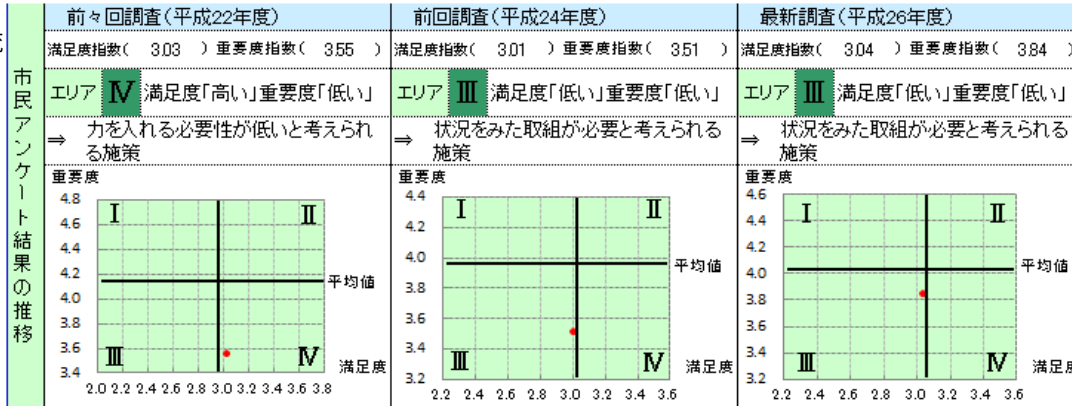
アンケート結果の分析	審議会意見
いずれも平均値を下回っているが、重要度指数の上昇傾向に反し、満足度指数は下降傾向にある。文化振興や文化財の保護・活用に市民の関心が高まっている結果と分析できる。市民のニーズに即した文化施設等の運営や各種事業を展開し、満足度指数の上昇を図る。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてほしい。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
4		地域間交流・国際交流	国際交流フェスティバル延べ参加者数	人/年	2,800 [H22]	3,500	目安値	2,940	3,080	3,220	消防音楽隊など10周年イベントで新たな催し物を行った成果として参加者数は伸びを示した。しかし、目安値と比較すると、ポスター、チラシによる広報に努めたが、会場の駐車場の確保が少なかったこともあり参加者は目標の値を下回った。	広報の仕方を、紙媒体だけでなくQRコードなどを利用し情報を広げ、各活動団体からの周知も行う。また、会場周辺を含め、参加しやすい環境を整え、魅力的な内容を精査し、参加者の増加を図る。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。特に広報の方法については、例年通りでなく工夫をしてもらいたい。
							実績値	2,750	2,500	2,800				
							評価	遅れている	遅れている	遅れている				
5	112	地域間交流・国際交流	国際交流サロン延べ参加者数	人/年	319 [H22]	400	目安値	335	351	368	事業を企画するボランティア団体から、サロンの開催希望が7回から6回に減ったことや、内容が前年と同じになってしまったこともあり、参加者数は目標値を下回った。	マンネリ化を防ぐため、サロンの内容を精査し、交流を生むイベント事業はボランティア団体が中心に、生活のサポート的内容は行政も関わりながら、サロンの回数も含め充実を図る。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
							実績値	309	328	228				
							評価	遅れている	やや遅れている	遅れている				
6		地域間交流・国際交流	空き家バンク掲載物件の契約成立件数	件/年	39 [H22]	50	目安値	41	43	46	目安値には1件およばなかったが、佐久市の空き家バンクの周知が図られていることが契約実績に結び付いている。	利活用可能な空き家の掘り起こしにより、引き続き空き家バンクの充実を図る。		今後引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
							実績値	47	59	45				
							評価	順調	順調	概ね順調				

施策名：地域間交流・国際交流

- 交流人口の創出
- 国際性豊かな人材育成
- 在住する外国人が暮らしやすいまちづくり



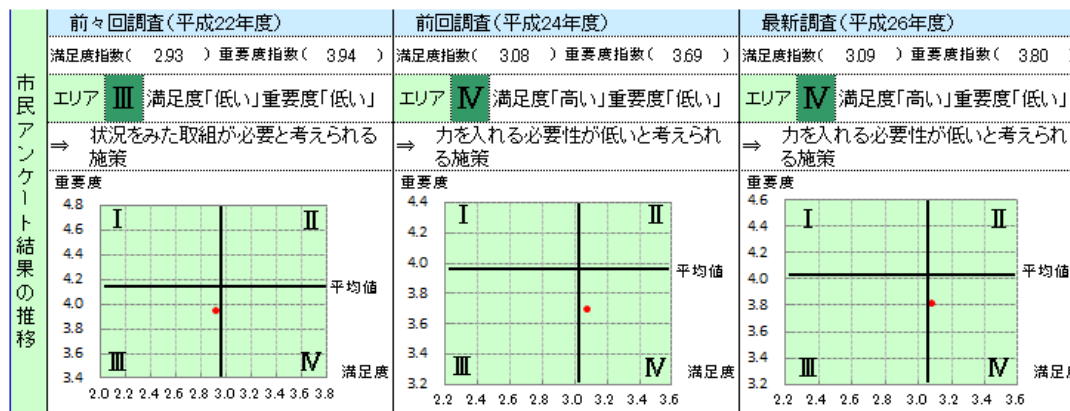
アンケート結果の分析	審議会意見
重要度指数は平均値以下ではあるが、上昇傾向にあり、満足度はほぼ平均値であった。重要度の上昇は、全国的に人口が減少する中でも、空き家バンクの充実等により、佐久市では人口の社会増が図られ、地域の活性化に寄与する施策の重要性が浸透して来ていると考える。また、国際交流事業についても、イベント等、ボランティア団体の活動も定着してきており、今後は重要度の上昇とともに、空き家バンクの充実や、国際性豊かな人材育成を図ることにより満足度の上昇を目指す。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
7	113	人権尊重社会	人権教育・啓発事業などの延べ参加者数	人/年	8,105 [H22]	8,500	目安値実績値評価	8,184	8,263	8,342	区や学校・民生委員会等に対して、学習会や講座について積極的な呼びかけを行ったことで、参加者の増加に結びついた。	人権同和教育講座や各区への学習会、また、学校・企業での研修会を開催し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図っていく。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
					順調	順調	順調								
8	113	人権尊重社会	隣保館活動などの延べ参加者数	人/年	5,227 [H22]	5,300	目安値実績値評価	5,242	5,256	5,271	身近な内容の事業を行い、広く市民に情報提供することにより、目標とする成果は得られた。しかしながら、参加者等の都合により、急遽実施できない講座、事業があり、昨年度よりは参加者が減少した。	各隣保館で開催している講座等を、それぞれ身近な地域の実態やニーズに合わせた内容を取り入れ引き続き実施し、地区住民との交流を促進していく。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
					順調	順調	順調								

施策名：人権尊重社会

- 人権意識の高揚
- 人権教育の推進



アンケート結果の分析	審議会意見
あらゆる差別が解消され、市民がお互いの人権を尊重し合う心豊かな生活を送っていることを願っているが、重要度が平均値より低くなっており、人権意識の啓発が不十分であると考え。しかしながら、満足度・重要度指数が前回と比べて微増しているのは、教育や啓発の成果と捉え、今後も満足度・重要度を上げていくために、粘り強く人権同和教育を推進し、人権感覚や人権意識の高揚を図っていく。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。特に、人権意識の高揚は重要な取組のため、重点的に取り組んでいただきたい。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
9	114	男女共同参画社会	審議会などにおける女性委員の登用率	%	18.1 [H22]	25.0	目安値 実績値 評価	19.5	21.0	22.2	各課へ女性委員の登用に努めるよう推進していることから、微増している。	意識改革はすぐに成果が表れるものではないが、目標値に近づくように機会あるごとに各課への呼びかけ協力を仰ぐとともに、一般公募の中に率先して手を挙げていけるような、女性の人材育成を図る。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
							19.7	20.5	22.6					
							順調	概ね順調	順調					

施策名：男女共同参画社会

- 男女共同参画意識づくり
- 男女が共に健やかに暮らし、安心して働ける環境づくり
- 男女共同参画の視点による人権の尊重と暴力のない社会づくり

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(3.14) 重要度指数(3.76)	満足度指数(3.10) 重要度指数(3.69)
	エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	エリアⅠ 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

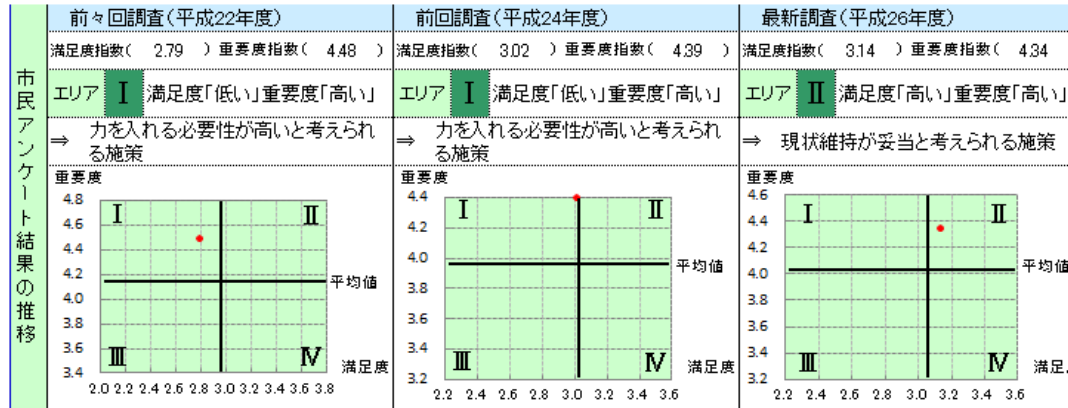
アンケート結果の分析	審議会意見
<p>前回調査に比べ満足度指数が微減している反面、重要度は「高い」に変化している。これは、「男女共同参画プラン」啓発が徐々に浸透したことによる、市民の「男女共同参画社会」に対する意識改革推進成果の表れともいえる。今後も継続して周知・啓発をしていき、男女とも住みよい社会にし、満足度・重要度を共に上げていく必要がある。</p>	<p>今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。</p>

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
10	122	学校教育	小学校不登校児童の割合	%	0.36 [H22]	0.32	目安値	0.35	0.34	0.34	目標値には達していないが、教育委員会設置の不登校等対策連絡協議会による不登校対策提言(H25)、事例集(H26)の発信、学校の不登校担当者を集めた担当者会議を年3回開催(H26より)するなど教職員のスキルアップや情報共有の場の創出等により昨年度より改善した。	児童相談所や子育て支援課等、関係機関との連携を密にし、児童の家庭環境の大きな変化をいち早くつかみ、適切な対応をしていく。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	
							実績値	0.51	0.60	0.44					
							評価	遅れている	遅れている	遅れている					
11			中学校不登校生徒の割合	%	3.24 [H22]	2.74	目安値	3.14	3.04	2.94	関係機関との連携をより深める努力をしたところ、不登校生徒の数は減少したが、今後も継続した対応が必要である。	日々の欠席状況の把握や生徒との教育相談の機会を定期的に設けることなどに重点を置き、不登校状況を未然に防ぐための努力をしていく。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
							実績値	3.35	3.46	2.31					
							評価	遅れている	遅れている	順調					

施策名：学校教育

- 学校教育施設の充実
- 教育内容の充実
- 特別支援教育、不登校対策の推進
- 学校給食の充実
- 児童生徒の保健管理と安全対策の推進



アンケート結果の分析	審議会意見
<p>昨今の、いじめや不登校、教職員の不祥事等の報道などから、市民の教育に対する関心が高まり、重要度が高い施策と認識されているものと考えられる。満足度については、前々回前比で上昇しているが、小中学校における市費学力向上職員の配置によるきめ細かな学習指導や、特別支援教育支援員の増員による支援の充実、またスクールメンタルアドバイザーや就学支援専門員の市教委への配置による、教育相談の充実などによる成果が徐々に表れてきたものと判断する。</p> <p>各学校では、楽しい学校・わかりやすい授業の学校を目指している。</p> <p>市教委においても、学校への支援として、今後も、「学力・体力の向上」・「いじめ・不登校改善」の課題に、子どもたちに寄り添ったきめ細やかな対応ができるよう、支援・相談体制の充実や学校環境の整備を進めていく。</p>	<p>今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。</p>

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
12	123	高校教育・高等教育	奨学金制度利用者数	人/年	32 [H22]	40	目安値 実績値 評価	34	35	37	平成23年度に対象となる学校に専門学校を加え、平成24年度に償還方法が選択できるように運用を変更し、利用者数の増に努めた。これらにより平成28年度末の目標値を上回ることができている。	制度のPRと合わせ、他の制度や他の自治体の制度と比較検討し、本制度がさらに活用されるよう改善していく。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
							遅れている	順調	順調					

施策名：高校教育・高等教育

- 高校教育の充実
- 優秀な人材の育成

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)		前回調査(平成24年度)		最新調査(平成26年度)	
	満足度指数(2.79) 重要度指数(4.48)		満足度指数(2.99) 重要度指数(4.25)		満足度指数(3.03) 重要度指数(4.22)	
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」		エリア I 満足度「低い」重要度「高い」		エリア I 満足度「低い」重要度「高い」	
	⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策		⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策		⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	

アンケート結果の分析	審議会意見
<p>高等教育とその重要性に関する関心は、相変わらず高い。奨学金制度については平成23年度より制度の対象となる学校に専門学校を含めることとして、平成24年度中より償還方法について、毎月均等償還と償還当初は少額で経年により償還額を増やしていく方法を選択できるようにした。これらもあってか若干の満足度の伸びは見えたが、相変わらず平均的な満足度指数を下回っている。今後もニーズに合わせた施策を実施していく。</p>	<p>今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。</p>

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
13	124	青少年の健全育成	各地区の育成活動への延べ参加者数	人/年	183,139 [H22]	184,000	目安値	183,311	183,483	183,656	目標値には達していないものの昨年度からは大幅の増となった。児童数の減少により、人数を必要とするスポーツ活動への参加が制限され、参加者が減少傾向だったが、各地区合同での大会の実施などの工夫により、増加につなげた。また、文化活動についても地区育成会と各地区が連携して活動したことにより参加者が増加した。	育成会活動や地域体験活動を更に推進するためには、各地域での育成推進員の重要さと推進員の資質向上に努めると共に、更なる育成会活動の取組に対するアドバイスや他地区との合同開催の提案等による支援を推進する。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	
			実績値	167,007	146,429	177,141									
			評価	遅れている	遅れている	遅れている									

施策名：青少年の健全育成

- 地域ぐるみの青少年育成
- 青少年研修事業の推進
- 交流・学習拠点施設の充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(2.97) 重要度指数(4.26)	満足度指数(3.04) 重要度指数(4.08)
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策

アンケート結果の分析	審議会意見
満足度指数は、上昇傾向にあり、平均値付近である。しかしながら、重要度指数は最新調査では平均値を下回った。これは、育成会活動が地域で徐々に浸透し、ある程度の満足度を感じているが、青少年健全育成の重要性については、広く市民に周知浸透していないと考える。今後は、満足度を更上げるべく地区の育成活動を支援する中で、併せて青少年の健全育成の重要性について周知を行っていく。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
14	131	生涯学習	生涯学習市民のつどいなどのイベント延べ参加者数	人/年	31,394 [H22]	32,000	目安値実績値 評価	31,515	31,636	31,758	市民のニーズにあった企画展の開催という面で昨年度より大幅な減となった。またイベントの内容のPR等の不足もあり目安値に及ばなかった。	生涯学習の機会に関わる情報の提供は、手法、場所等について工夫を重ねていく。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
31,515			29,371	37,380	28,834	遅れている	順調	遅れている						
37,285			37,464	37,642	33,978	25,733	28,898	遅れている	遅れている	遅れている				
15	131	生涯学習	公民館事業別延べ参加者数	人/年	37,106 [H22]	38,000	目安値実績値 評価	37,285	37,464	37,642	前年に対し増加しているものの、PRの不足もあり、大幅な参加者増加には繋がらなかったことから、最終目標値には達しなかった。	引続き、公民館事業参加者の獲得に向け、事業の見直しや、事前PRを実施していく。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
37,285			37,464	37,642	33,978	25,733	28,898	遅れている	遅れている	遅れている				
545,521			559,141	572,760	567,453	534,284	573,643	順調	遅れている	順調				
16			図書などの貸出し冊数	冊/年	531,901 [H22]	600,000	目安値実績値 評価	545,521	559,141	572,760	平成26年7月12日より、全市立図書館一斉に「読書通帳事業」を開始し、小学生を中心に多くの方がこれを利用し、読書活動に好影響を与えたと考えられる。	読書通帳についての利用一層拡大や、インターネット予約検討等により、より借りやすく、利用しやすくなるような環境整備を図る。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
545,521	559,141	572,760	567,453	534,284	573,643	順調	遅れている	順調						
567,453	534,284	573,643	順調	遅れている	順調									

施策名：生涯学習

- 生涯学習活動の活発化
- 生涯学習環境の充実
- 図書館サービスの充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(3.33) 重要度指数(3.78)	満足度指数(3.25) 重要度指数(3.77)
	エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

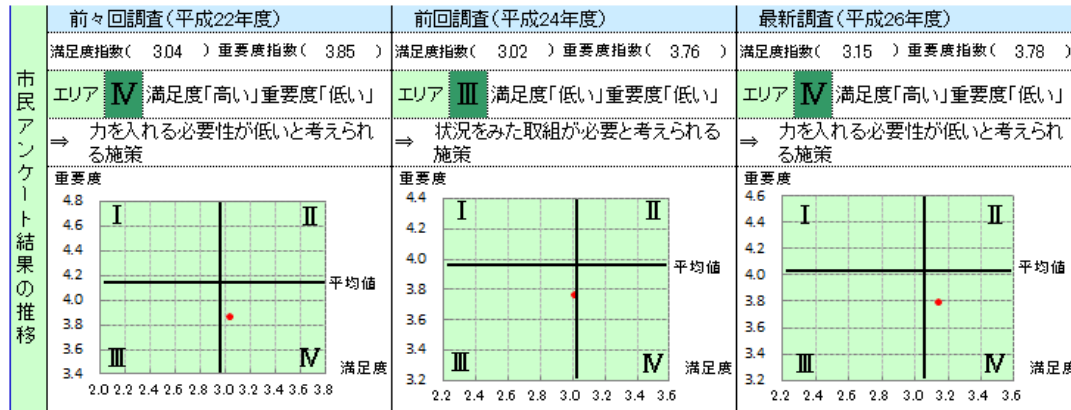
アンケート結果の分析	審議会意見
3回の調査ともに、満足度が平均値より高く、重要度は低くなっている。これは、公民館活動をはじめとした生涯学習活動が、市民にとって身近な存在であり、多くの市民がそれにより自己実現が図られている結果と考えられる。団塊の世代の退職にともなう生涯学習への関心の高まり、参加者の増加等も見込まれるため、講座等の充実を図り、高い満足度の維持を目指す。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
17	132	スポーツ	スポーツ教室延べ参加者数	人/年	4,225 [H22]	5,000	目安値実績値	4,380	4,535	4,690	参加者不足及び講師の都合により中止となった教室が5教室あったが、参加者数は昨年を上回った。	市民ニーズを把握するため、アンケート調査を実施し、ニーズに合った教室内容を検討する。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。また、指導者が少なくなってきたことから、指導者育成にも努めてもらいたい。
							評価	概ね順調	遅れている	遅れている				
							評価							
18	132	スポーツ	スポーツ大会延べ参加者数	人/年	15,912 [H22]	17,500	目安値実績値	16,230	16,547	16,865	参加者が多い元旦マラソンと臼田地区ソフトボール大会が天候不順により中止となったため、昨年より少ない結果となった。	参加資格や対象年齢、競技運営方法等について見直し、参加者が増える大会になるよう検討する。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえ、より参加者のニーズに合った取組を進めてもらいたい。
							評価	遅れている	遅れている	遅れている				
							評価							
19	132	スポーツ	体育施設延べ利用者数	人/年	631,300 [H22]	700,000	目安値実績値	645,040	658,780	672,520	改修等で使用できない施設もあるが、佐久総合運動公園陸上競技場で、部活動など団体での利用者が増加している。	施設の長寿命化計画を策定する中で、計画的に施設整備を実施していく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
							評価	やや遅れている	順調	順調				
							評価							

施策名：スポーツ

- 生涯スポーツ参加機会の充実
- 競技スポーツの振興
- 体育施設の充実



アンケート結果の分析	審議会意見
<p>前回調査に比べ、満足度、重要度ともに微増している。大会やスポーツ教室は、一部の参加者に限られていると考えられることから市全体からみた評価は低いと思われる。今後はアンケート調査を行い、市民ニーズに対応した事業を実施し、スポーツに対する意識を高めていくことが必要と思われる。また、ニーズに合った施設整備を行うことで、満足度が高まっていくと考えられる。</p>	<p>今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。</p>

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							備考	審議会意見	
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	結果の分析			今後の方針
20		高速交通ネットワーク	長野新幹線の延伸(長野ー金沢間の開業)		未開業 [H22]	開業	目安値 実績値 評価	26年度開業予定	26年度開業予定	27年3月14日開業	平成27年3月に金沢まで延伸開業がされた。平成27年1月に政府与党申し合せで、敦賀までの完成目標が34年度とされた。	北陸新幹線の佐久平駅停車本数確保に向けて関係機関へ働きかけて行くとともに、敦賀までの速やかな開通と金沢ー大阪間の早期全線開通を目指し関係団体と協力していく。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
21	211		中部横断自動車道佐久南インターチェンジー八千穂インターチェンジ(仮称)間の開通		未開通 [H22]	開通	目安値 実績値 評価	28年度以降の開通	28年度以降の開通	平成29年度の開通	本区間について、平成26年4月に国土交通省より平成29年に開通と公表された。	29年度開通に向けて、道水路整備事業、中部横断自動車道調整事業を進捗させる。併せて、県施行の県道上小田切白田停車場線アクセス道の整備促進していく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
22			中部横断自動車道八千穂インターチェンジ(仮称)から長坂ジャンクション(仮称)間の整備計画格上げ		基本計画区間 [H22]	整備計画区間	目安値 実績値 評価		未定	未定	未定	計画段階評価が行われルート帯案が決定し、対応方針案が発表された。次に環境影響評価となり、整備区間への格上げの段階となる。	今後は、環境影響評価の実施、整備区間格上げに向けて要望活動を行っていく。	

施策名：高速交通ネットワーク

- 高速自動車道の整備促進
- 北陸新幹線の延伸促進
- 松本・佐久間の地域高規格道路建設促進
- 佐久平駅やインターチェンジの利用促進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(3.75) 重要度指数(4.09)	満足度指数(3.45) 重要度指数(4.00)
	エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	エリアⅡ 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	エリアⅡ 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

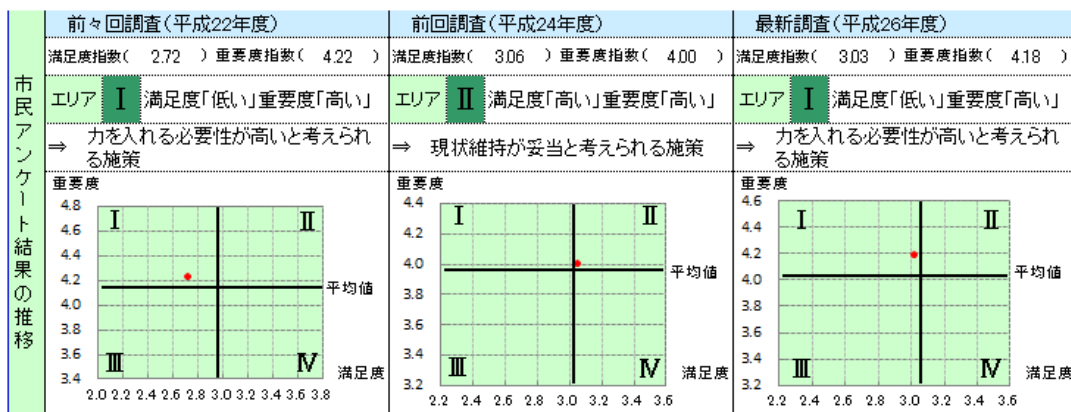
アンケート結果の分析	審議会意見
最新調査で、満足度が前回と同様に微減となった。これは中部横断自動車道(仮称)八千穂ICまでが、平成29年度開通と発表されたことにより具体的な目安は示されたが、3年後の開通となることから満足度は微減となったと推測される。 一方、重要度は微増となった。これについては北陸新幹線の金沢延伸開業が平成27年3月されたこと。更に、敦賀までの延伸についても完成目標が平成34年度となったことが微増につながったと推測される。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
23	212	地域交通ネットワーク	幹線道路整備延長	m	4,731 [H22]	8,231	目安値 実績値 評価	5,431 6,127 順調	6,131 7,440 順調	6,831 8,034 順調	事業計画期間末期を迎え、工事完了する箇所が多かったことにより進捗が確保された。	財源確保、コスト縮減に努め整備延長を確保する。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
24			都市計画道路整備延長	m	59,527 [H22]	63,377	目安値 実績値 評価	60,297 62,635 順調	61,067 64,160 順調	61,837 65,219 順調	中部横断自動車道の整備が進んだことにより、目標値を大幅に上回った。	すでに目標値を達成したが、今後も整備に努める。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
25			アダプトシステム管理箇所数	箇所	3 [H22]	19	目安値 実績値 評価	6 16 順調	9 17 順調	13 17 順調	呼び掛けにより参加団体は増えたが、人員減等により活動を休止した団体もあり現状維持の状態である。	アダプトシステム事業を周知し、大勢の市民の方々に参加していただくように、普及を推進していく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
26			公共交通延べ利用者数	人/年	113,538 [H22]	125,000	目安値 実績値 評価	115,830 108,768 遅れている	118,123 103,595 遅れている	120,415 102,956 遅れている	利用者は減少傾向にあったため、利用者ニーズ等を踏まえ、平成26年10月にダイヤ改正を行った。結果改正前よりも利用者は増加したが、年間では昨年より減少となった。	乗車体験イベント等更に公共交通の周知広報の実施と利用者ニーズの把握、利用者の多い路線の増便等を行い利用者の確保に努める。		公共交通機関の利用者数を増やすために、市民はもとより観光客にも分かりやすく、利用しやすい公共交通体系の構築を進めていきたい。

施策名：地域交通ネットワーク

- 地域幹線道路網の整備
- 生活道路の整備充実
- 道路の計画的な維持管理
- 地域公共交通の維持・見直し
- 広域的公共交通機能の充実



アンケート結果の分析	審議会意見
<p>重要度は高い値で推移しているが、満足度は昨年度より低くなり、平均値を下回っている。</p> <p>道路整備の面では地元からの多くの要望に応えられるよう効率的に業務を実施することによって、満足度向上を図る。</p> <p>また、公共交通の面ではバス利用者アンケート調査等を参考に、平成26年10月に増減便等のダイヤ改正を行い運行しているが、今後の利用者の動向も踏まえ、より市民ニーズにあった公共交通の体系の構築を図っていく。</p>	<p>今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。</p>

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
27	221	土地利用	宅地面積	ha	2,337 [H21]	2,492	目安値 実績値 評価	2,368	2,399	2,430	住宅のための宅地需要の増加から、宅地面積が増加している反面、民間の事業展開のための工業用地の宅地化は、あまり進んでいない状況となっている。	雇用増加や定住者増加を目指し、適地において工業用地、商業用地などの宅地化の推進を図る。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
							2,378	2,386	2,404					
							順調	概ね順調	概ね順調					

施策名：土地利用

- 秩序ある土地利用の推進
- バランス良い都市構造の再構築
- 土地需要の調整と適正な土地利用の誘導
- 国土調査の推進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)		前回調査(平成24年度)		最新調査(平成26年度)	
	満足度指数(291) 重要度指数(382)		満足度指数(282) 重要度指数(380)		満足度指数(287) 重要度指数(387)	
	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」		エリア III 満足度「低い」重要度「低い」		エリア III 満足度「低い」重要度「低い」	
	⇒ 状況を見た取組が必要と考えられる施策		⇒ 状況を見た取組が必要と考えられる施策		⇒ 状況を見た取組が必要と考えられる施策	

アンケート結果の分析	審議会意見
重要度、満足度とも平均値よりは低い値となっているが、大規模な土地利用が進展するまでには時間を要するため、対市民にとって効果が認識づらい。このことから、ともに低い数値となったものと考えられる。土地利用は、まちづくりの重要な要素であり、国土利用計画(佐久市計画)の方針に沿った土地利用を推進していくことが重要である。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらおう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
28	222	市街地	跡部臼田線・龍岡城駅線の整備率	%	0.4 [H22]	100	目安値 実績値 評価	20 32.46 順調	40 46.18 順調	60 78.24 順調	事業計画に沿って事業が進捗している。	事業完了にむけて、今後も事業を進めていく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。

施策名：市街地

- 良好な市街地の形成

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)	アンケート結果の分析	審議会意見	
		満足度指数(2.91) 重要度指数(3.82)	満足度指数(2.80) 重要度指数(3.80)	満足度指数(2.94) 重要度指数(4.08)		
	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策			
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 満足度 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6		満足度指数と重要度指数共に改善されている。均衡ある市域の発展と都市基盤の整備のため、計画的に区画整理事業などの都市計画事業を進めているが、事業に直接関係する市民と、そのほかの市民では、事業に対する理解度に大きな開きがあり、事業の重要度に対して低い結果となっていると思われる。しかし、将来を見据えた市街地整備は重要と考えており、今後も市民の理解を深めながら、事業に取り組んでいく必要があると考える。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
29	223	住宅・宅地	住宅マスタープランの策定		未策定 [H22]	策定	目安値	部分的策定	部分的策定	部分的策定	平成26年3月に策定した佐久市公営住宅長寿命化計画の中で公営住宅の維持管理を推進している。	市の公共施設マネジメント基本方針における公共施設再配置計画、平成28年度に策定される第2次総合計画、また、県の長寿命化計画の見直し状況等を勘案しながら、平成32年度以降の長寿命化計画の見直しを踏まえ、策定期間、内容について考える。		需給バランスを踏まえて公営住宅の整備と管理を進めるとともに、来年度以降で遅れを取り戻せるよう、取組を進めてもらいたい。	
					実績値	未策定	部分的策定	部分的策定							
					評価	遅れている	やや遅れている	やや遅れている							

施策名：住宅・宅地

- 総合的な住宅施策の方針策定
- 公営住宅の整備と管理
- 住宅・宅地の適正供給
- 質が高く安全な住環境の整備や空き家対策の充実
- 耐震改修の促進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)		前回調査(平成24年度)		最新調査(平成26年度)	
	満足度指数(291)	重要度指数(382)	満足度指数(288)	重要度指数(379)	満足度指数(288)	重要度指数(388)
	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」		エリア III 満足度「低い」重要度「低い」		エリア III 満足度「低い」重要度「低い」	
	⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策		⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策		⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	

アンケート結果の分析	審議会意見
<p>満足度は低い状況であるため、住環境の向上に資する施策や既存集落の道路環境の整備を進めることにより満足度を高めていく必要があると考えられる。</p> <p>一方、重要度指数も他施策と比較して相対的に低く、住宅について大きな問題を有しないのか、重要であるという意識があまり高くないことがうかがえる。</p>	<p>今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。</p>

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移									審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	結果の分析	今後の方針	備考	
30	231	高度情報通信ネットワーク	電子申請の件数	件/年	289 [H22]	500	目安値	331	373	416	平成26年度は、イベント会場におけるアンケート回答に電子申請を活用し、直接来場者を誘導できた昨年に比べ減少した。イベント利用など特質なことを除き、電子申請の項目を増やすことが、利用者数の増加につながる要因であると考えられる。	目標値を超える結果を維持するためには、利用項目を増やす必要があるため、働きかけを強化する。	目標達成	情報通信技術は年々普及しているが、平成26年度は伸び悩んでいる。市民の利便性の向上のため、今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。

施策名：高度情報通信ネットワーク

- 地域情報化の推進
- 情報提供・情報発信の充実
- 行政・市民サービスの情報化
- 情報セキュリティ管理

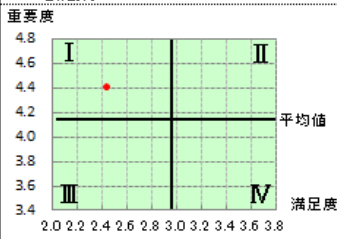
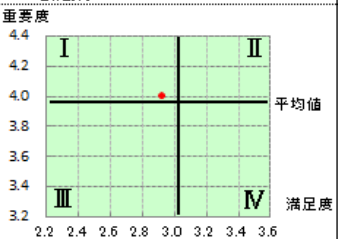
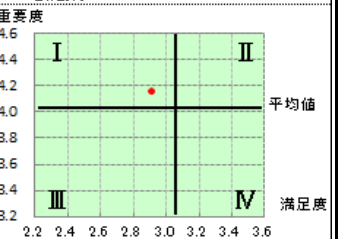
市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)	アンケート結果の分析	審議会意見
		満足度指数(3.16) 重要度指数(3.84)	満足度指数(3.01) 重要度指数(3.74)	満足度指数(3.02) 重要度指数(3.79)	<p>前回調査と比較し、横ばいの状態と判断できる。</p> <p>市内全域にブロードバンド環境が整い、誰もがインターネットを無理なく利用できるようになってきているが、行政手続き等において電子化が進まない事業があるなど、市民満足度・重要度が向上しない要因と思われる。</p> <p>今後は、市民生活が向上となるICT利活用向上のためのニーズの把握と、施策を見直す必要があると考える。</p>
	<p>エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」</p> <p>⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策</p>	<p>エリアⅢ 満足度「低い」重要度「低い」</p> <p>⇒ 状況を見た取組が必要と考えられる施策</p>	<p>エリアⅢ 満足度「低い」重要度「低い」</p> <p>⇒ 状況を見た取組が必要と考えられる施策</p>		

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
31			認定農業者数	経営体	268 [H22]	310	目安値 実績値 評価	276 270 やや遅れている	285 269 遅れている	293 247 遅れている	毎年新規で認定する農業者は10名前後いるが、高齢農業者が増えて更新をしないため全体として減少傾向にある。	農業後継者等若い農業者へ認定農業者制度を理解してもらい、育成することで目標の達成を目指す。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取組を進めてもらいたい。
32	311 農業		農業アシスタント数	人	20 [H22]	70	目安値 実績値 評価	30 18 遅れている	40 23 遅れている	50 31 やや遅れている	花きのアシスタント講習の他、平成25年度から野菜のアシスタント講習会を開催したところ、新規就農者をはじめとしてアシスタント講習の受講者が増加した。	様々な品目の講習を開催し、受講者を増やす。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取組を進めてもらいたい。
33			農業法人数	法人	16 [H22]	20	目安値 実績値 評価	17 21 順調	18 22 順調	18 21 順調	人・農地プランの作成による農地利用集積の推進や、農の雇用事業の活用支援などを行っており、経営の安定化を図るため、法人化する農業者が増加している。	国の事業等を利用しながら、法人化を目指す農業者を支援する。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
34			農畜産物産出額	億円/年	108 [H18]	110	目安値 実績値 評価	データ入手不可能			(本項目は、国が市町村別の統計調査を行っていたが、平成18年度調査を最後に調査が行われなくなった。現在、全国市長会を通じて、国に対し、調査の復活の要望を行っている。)			

施策名：農業

- 農業経営構造の確立
- 優良農地の保全
- 農業生産の振興と食料の安定供給の確保
- 農業・農村の多面的機能（食文化の形成・伝承など）の向上
- 農業基盤（水路や農道）整備の推進
- 農工商連携による地産地消の推進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)	アンケート結果の分析	審議会意見
	満足度指数(2.44) 重要度指数(4.40)	満足度指数(2.93) 重要度指数(4.00)	満足度指数(2.92) 重要度指数(4.15)		
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策		
				重要度指数は4.15であり、他の施策と比較して平均値より高くなっており、農業が重要であることが伺える。他方、満足度指数は2.92と他施策と比較して低くなっており、今後は、事業費などの行政の投入資源をさらに増やす必要性は高いと判断する。 今後は、就農希望相談会や経営改善計画作成支援の機会を増やし、認定農業者の育成を図る。また、新規就農者への定着の支援や農地流動化を奨励することにより、満足度を高めていくことが望ましいと考える。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
35	312	水産業	佐久鯉出荷量	t/年	110 [H22]	115	目安値	111	112	113	各種イベントによる試食、PR用パンフレット、CDの作成その他、広報誌への佐久鯉料理の掲載等により佐久鯉の周知を行い消費量の拡大を図っているが、食文化の変化などにより需要は減少傾向である。	料理教室などを開催し、佐久鯉の様々な調理をPRする中で、需要の拡大を図る。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取組を進めてもらいたい。
						実績値	99	99	90					
							評価	遅れている	遅れている	遅れている				

施策名：水産業

- 内水面漁業（淡水での漁業）の振興
- 佐久鯉のブランド化促進及び商業・観光業と連携した水産業の多面的な振興

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(257) 重要度指数(416)	満足度指数(301) 重要度指数(347)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況を見た取組が必要と考えられる施策	エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要が低いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

アンケート結果の分析	審議会意見
アンケート結果では、力を入れる必要が低いと考えられる施策との分析であるが、イベントなどをはじめ水産業の消費拡大推進を図らないと、佐久市を代表する佐久鯉をはじめシナノユキマスなどの水産業の衰退に繋がる。地域の歴史や文化を後代に継承していくためにも地場産業として振興を図る必要がある。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
36	313	林業	森林整備面積	ha/年	610 [H22]	780	目安値 実績値	644	678	712	平成26年度市内森林整備(民間事業者含む)については、県において集計を行うが9月末現在において集計中とのこと。	木材の需要拡大に向け、関係団体との協議を進める中で、森林整備を推進する。		森林をはじめとする自然は佐久市の財産であり、失われると取り戻せないで、松くい虫対策等も含めて、取組を進めてもらいたい。
						評価	遅れている	遅れている						

施策名：林業

- 林業生産の振興
- 森林の保全
- 森林の多面的機能(健康づくりや観光、レクリエーションなど)の活用

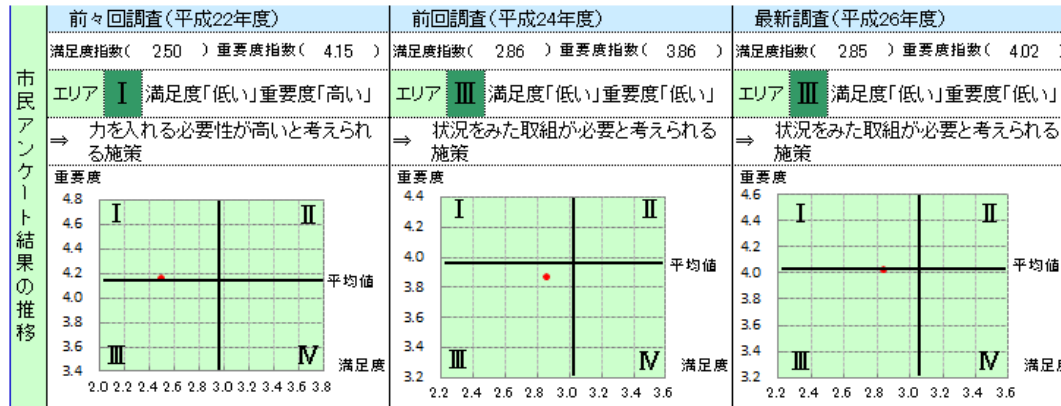
市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)	アンケート結果の分析	審議会意見
		満足度指数(3.19) 重要度指数(3.59)	満足度指数(2.84) 重要度指数(3.77)	満足度指数(2.88) 重要度指数(3.87)	
	エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	エリアⅢ 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリアⅢ 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策		
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度 平均値	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度 平均値	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度 平均値	満足度は低い状況であるため、林業に資する施策を進めることにより満足度を高めていく必要があると考えられる。 一方、重要度指数も他施策と比較して相対的に低く、林業について大きな問題を有しないのか、重要であるという意識があまり高くないことがうかがえる。今後森林の大切さを知っていたくためPRを行っていく。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
37	321	商業・サービス業	商品販売額	億円/年	1,994 [H19]	2,100	目安値	2,015	2,036	2,058	H26の経済センサス(法務省統計局実施の経済構造統計調査)の調査結果を注視していきたい。	H26年度より空き店舗対策に伴う、補助金を活用していただき、空き店舗の解消に努め商店街の環境整備を図り商品販売額の増加を目指す。		地域資源を生かした商品開発・販売について、各種団体が連携して取り組めるような仕組みづくりの支援を考慮して取り組んでもらいたい。また、佐久平駅で佐久市の地場産品の販売が少ないと思うので、検討して欲しい。
						実績値	1,656	未公表	未公表					
						評価	遅れている	実績値なし	実績値なし					

施策名：商業・サービス業

- 商業経営の体質強化
- 魅力ある商店街の形成
- 商業立地のバランスと利便性の確保
- 流通・サービス業の振興
- 新たな商品開発とブランド化の促進



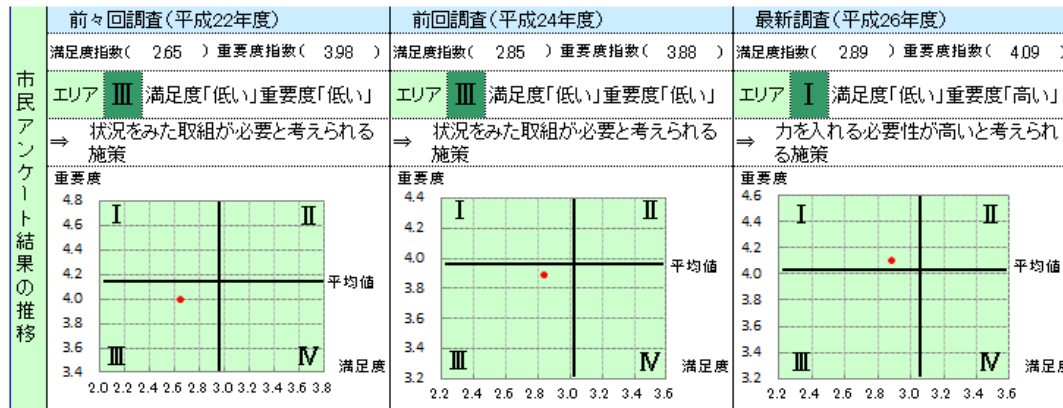
アンケート結果の分析	審議会意見
<p>今回の調査で重要度が上昇し、満足度は変わらない状況ですが、これは既存商店街で空き店舗が点在する状況にあることによるものと思われることから、空き店舗対策事業補助金等の補助金を活用して頂けるよう周知を図って行く。</p>	<p>今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。</p>

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
38	331	観光	市内への延べ入込客数	万人/年	162 [H22]	190	目安値	168	173	179	入り込み客数は目標値には届かなかったものの誘客や広告の宣伝を積極的に行ったことで前年よりも数値が伸びた。	インターネットや雑誌などの広告を使った効果的な観光宣伝を展開し積極的に観光誘客宣伝を進めていく。		ベットとともに旅行したいといった、新たな観光客のニーズへの対応も含めて検討し。来年度以降で遅れを取り戻せるよう、取組を進めてもらいたい。
						実績値	152	148	159					
						評価	遅れている	遅れている	遅れている					

施策名：観光

- 観光振興施策の推進
- 観光基盤の整備
- 観光の情報発信
- 農林水産業や商工業との連携による体験型観光や土産品の開発の促進



アンケート結果の分析	審議会意見
<p>市民アンケートの結果では、平成24年度の調査と同様に満足度は「低い」結果であったが、重要度では、平成24年度の「低い」から平成26年度は「高い」と評価をされている。これは、平成25年度に佐久市内に訪れた観光客数が148万人に対し、平成26年度は159万人と11万人の増となっていることから、重要度が上がった要因と思われる。しかし、市内にある観光施設の老朽化が危惧されていることから、計画的に改修を進める中で観光客のニーズにあった事業展開を行う必要がある。今後も、市民に佐久市の観光のあり方を理解していただきながら、観光客の増加につながる施策の展開、観光イベントの内容の充実を図り、PR活動を積極的に行い、入込客数の増加を図ることにより経済効果を求めていく必要がある。</p>	<p>佐久市の観光について、観光客が具体的に何に満足して、何に不満なのかを検証して、佐久市での観光消費額といった目標設定につなげていくと良いのではないかと。</p>

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
39	341	工業	製造品出荷額	億円/年	2,061 [H22]	2,500	目安値	2,149	2,237	2,324	集計中	平成27年度において、新たな助成制度として、①海外から国内回帰する企業に対する補助(プロジェクトR)、②市内既存企業を対象に工場等の建設・設備導入経費に対する補助を創設した。また、企業単独での展示会等への出展に対し補助金を交付する販路拡大支援事業を創設し、企業への制度の活用を促し、目標達成に向け取り組んでいく。		地震が少ないという地域の強みを生かし、地域の特性に応じた産業の集積を考えた企業誘致を行うとともに、起業・創業のための施設の検討等により工業振興を図られたい。
						実績値	1,703	1,932	集計中					
						評価	遅れている	遅れている	実績値なし					

施策名：工業

- ものづくり産業の育成
- 工業基盤の整備と活用
- 企業誘致の推進
- 農業・観光施策との連携、異業種連携、大学との連携の促進
- 高度な技術や能力を持った人材の育成

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(256) 重要度指数(418)	満足度指数(282) 重要度指数(402)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 満足度 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6

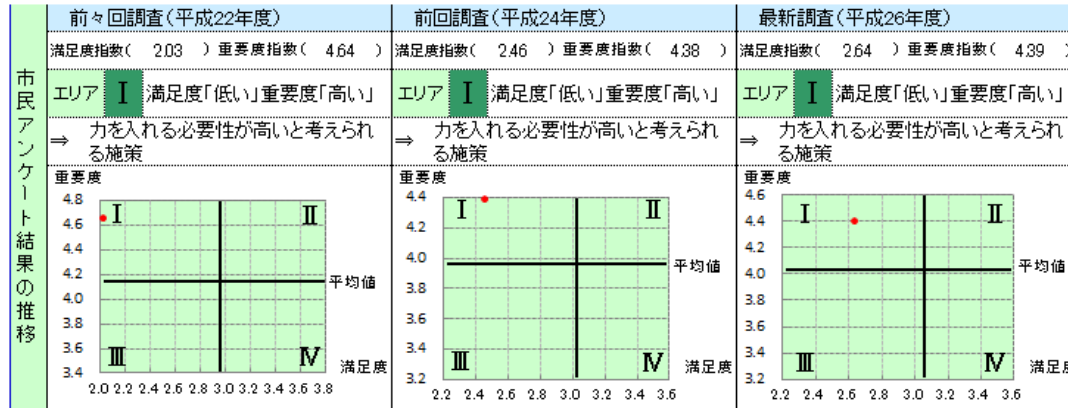
アンケート結果の分析	審議会意見
満足度指数は、前回調査調査に比べて微増しており、事業実施の成果はあらわれていると思われる。市民の重要だとの認識に対して、満足度として結果が出ていないことは、施策が広く市民に影響を与えるものでなく、間接的に影響を与えるものであるためと考える。 企業に助成制度を活用していただけるよう、より一層PRに努め企業立地の推進と市内工業の活性化を図り、目標の達成を目指す。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
40			就職相談会参加者数	人/年	113 [H22]	130	目安値	116	120	123	就職ガイダンスに参加する企業を増やしたことのより、参加者が増加した。	ひとりでも多くの学生が市内企業へ就職してもらえるよう、就職相談会への参加者増を目指す。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
						実績値	73	110	123					
						評価	遅れている	遅れている	概ね順調					
41	351	就労・雇用	インターンシップ実施学生数	人/年	7 [H22]	15	目安値	9	10	12	受入事業所は10社程度のため、受入事業所を増やすことが目標達成に必要である。	参加する学生への補助制度をつくり、参加者増加を目指す。		経済的な負担から就職活動に制約のある学生もいるので、参加者への助成は有効。インターンシップの実施自体を知らない者も多いと思うので、広報等の周知方法を工夫してほしい。
						実績値	6	8	4					
						評価	遅れている	やや遅れている	遅れている					

施策名：就労・雇用

- 雇用機会の確保・創出
- 労働力の確保
- 勤労者福祉の充実



アンケート結果の分析	審議会意見
重要度指数は4.39で平均を大きく上回っており、働く機会・働く環境が重要視されている。一方満足度指数は前回より0.18ポイント改善されているが、平均を大きく下回っていることから、ハローワーク等の関係機関と連携し、就労・雇用対策を講じていくことが必要と考えられる。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
42	411	福祉のまちづくり	福祉体験教室開催回数	回/年	14 [H22]	16	目安値実績値評価	14	15	15	多くの学校等に事業の目的を説明し、協力を得て体験教室を開催できたが、小中学校で総合学習の時間が減少していること、学校独自に実施していることなどから、目標値に達しなかった。	今後も多くの学校に事業の目的を説明し、体験教室を開催することによりボランティア意識の向上を図る。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。また、福祉の心を育てることが重要なため、事業主体にこだわらず進めて欲しい。

施策名：福祉のまちづくり

- 障がいのあるなしにかかわらず支え合える地域福祉の推進
- 福祉に関するボランティア活動の促進
- 障がい者や高齢者の社会参加の促進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(3.03) 重要度指数(4.18)	満足度指数(3.07) 重要度指数(4.16)
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策

アンケート結果の分析	特記事項
<p>地域福祉については、市民の意識は年々高くなるとともに、ニーズが多様化しているため、重要度は高いが満足度は低い結果になったと考えられる。ニーズを捉えた施策展開が図れるよう検討する。</p>	<p>今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。</p>

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
43	412	高齢者福祉・介護保険	介護予防事業の延べ参加者数	人/年	19,095 [H22]	23,500	目安値	19,976	20,857	21,738	二次予防高齢者施策では、介護予防に対する保健師・看護師の訪問体制の充実、職員のアプローチ技術の向上により、該当者の介護予防の必要性について理解が得られやすくなったことから、介護予防ふれあいサロン事業の参加者が増加した。一般高齢者施策では、積極的なPRを地区サロンや広報等で行ったことに加え、現に参加者の満足度が高いことから、参加者を通じた口コミによる伝播により、各事業の参加者が増加した。	今後もこの水準を維持していきたい。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。介護予防事業は寝たきり予防として重要な施策であるため、さらに高みを目指して進めて欲しい。
						実績値								
							評価	順調	順調	順調				

施策名：高齢者福祉・介護保険

- 高齢者支援サービスの推進
- 高齢者福祉施設の整備
- 介護保険の適正な運営
- 成年後見制度の利用促進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(2.79) 重要度指数(4.52)	満足度指数(3.00) 重要度指数(4.29)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

アンケート結果の分析	審議会意見
重要度指数が「4.40」と高いにもかかわらず、満足度が「2.97」と低い。介護予防事業に関しては一層の市民への周知と住民自らが介護予防(活動)の大切さを認識するための動機付けをする広報活動が必要である。併せて介護保険料負担と給付等のバランスにも配慮するなかで「在宅介護」並びに「施設介護」の介護基盤の整備充実を推進することで満足度を高めていく。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移									審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	結果の分析	今後の方針	備考	
44	413	障がい者福祉	相談支援事業実施事業所数	事業所	5 [H22]	20	目安値	8	11	14	障害者総合支援法の改正により、平成26年度末までに、全ての福祉サービス利用者にサービス等利用計画の作成が義務付けられたことから、福祉サービス事業所に、計画を作成する指定相談支援事業所の開設について働きかけた結果、事業所の増加につながった。	障がい(児)者の自立と社会参加のため、相談支援事業所及び相談支援専門員等と連携協力するなかで、引き続き相談支援専門員の資格取得を願ひし、相談支援体制の充実を図り、利用者の満足度を高められるよう事業を実施していく。		他の自治体の事例も参考に、今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでほしい。
						実績値	11	12	14					
							評価	順調	順調	順調				

施策名：障がい者福祉

- 障がい者福祉サービスの充実
- 障がい児及び発達が気になる児童などに対する支援
- 障がい者施設の充実
- 障がい者の社会参加の支援

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(284) 重要度指数(4.36)	満足度指数(299) 重要度指数(4.14)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 満足度 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6

アンケート結果の分析	審議会意見
重要度指数は、平均値の中上位に位置しており、市行政において重要な施策のひとつであることが伺える。一方、満足度指数は平均値より低く、より一層の事業の充実が必要と考える。事業所と行政が連携し相談支援体制の充実を図るなかで、障がい(児)者のニーズを的確に把握し、障害者福祉サービスを提供することにより、満足度を高めていく事が望ましいと考える。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでほしい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見					
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度									
45	414	母子父子福祉・低所得者福祉	高等技能訓練促進費・自立支援教育訓練給付金受給者数	人/年	4 [H22]	6	目安 実績 評価	4	5	5	5	6	順調	順調	順調	広報やHPでの制度の周知を努めたことにより、受給者数が順調に推移している。	母子家庭等の経済的な自立を支援するため、広報やHPでの諸制度の周知と利用拡大を図る。	目標達成	今後もニーズをとらえて、引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。

施策名：母子父子福祉・低所得者福祉

- 母子・父子家庭福祉の充実
- 低所得者福祉の充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(2.75) 重要度指数(4.15)	満足度指数(2.94) 重要度指数(3.90)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」
	⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策	⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

アンケート結果の分析	審議会意見
指数では満足度指数が2.91で前回調査より低下していることから、ひとり親家庭の自立に向けた施策について、県やハローワーク等と連携し、雇用形態の改善など、経済的安定に繋がる支援を充実させ、満足度を高めていくことが望ましいと考える。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見	
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
46			びんころステーション延べ参加者数	人/年	1,715 [H22]	2,000	目安値		1,772	1,829	1,886	栄養士会佐久支部との分担により回数を減らしたため、野沢山門市における参加者数は減少した。また、保健補導員2年目任期の影響により、補導員活動としての開催が少なかったことが減少につながった。	メタボリックシンドローム該当者や脳血管疾患による死亡割合は、依然として多い状況であるため、望ましい食習慣獲得のために講座の実施箇所拡大を図る。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえつつ、さらにPR活動を強化して取り組みを進めてもらいたい。また、地域差があるのかを調査し、認知度や参加者の少ないところに力をいれていってもらいたい。
							実績値		1,080	1,286	1,228				
							評価		遅れている	遅れている	遅れている				
47	421	健康増進	3歳児のむし歯保有率	%	26.71 [H22]	20.00	目安値		25	24	23	むし歯判定の基準について、長野県の通知により、平成25年度から「サホライド塗布歯」の扱いを、サホライド塗布の有無ではなく、脱灰の有無により判定をすることとなったため、むし歯保有率が高くなり、目安値を下回っているが、前年と比較すると、子どもの歯の教室等の実施により、若干であるが改善された。	子どもの歯の教室等、様々な機会を有効に活用し、むし歯保有率の減少を図る。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
							実績値		20.89	25.12	24.89				
							評価		順調	やや遅れている	やや遅れている				

施策名：健康増進

- 地域保健組織（保健補導員会など）の育成
- 健康づくり活動の推進
- 食育の推進
- 健康管理システムの整備

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)	アンケート結果の分析	審議会意見
		満足度指数(3.25) 重要度指数(4.00)	満足度指数(3.25) 重要度指数(3.88)	満足度指数(3.31) 重要度指数(3.97)	
	⇒ エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	⇒ エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	⇒ エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策		
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 満足度 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 満足度 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6	満足度が平均より高い状態が継続しているのは、健診や保健予防活動、食育推進事業に対する理解が得られていると考える。しかし、重要度は、平均値以下の状態が継続している。今後、健康増進の重要性について、さらに周知を図る。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
48	422	保健活動	メタボリックシンドローム該当者・予備軍の割合	%	25.2 [H22]	15.2	目安値	23	21	19	割合は大きく変化していないが、長野県平均は25.2%であり、当市は平均的な値である。変化のない要因としては、健診者の増加により、対象者が増えていること、個別健診や人間ドックなどの受診者への事後指導や特定保健指導実施率が低いことが考えられる。	医療機関との連携を図り、事後指導や、特定保健指導、結果報告会での指導を充実させる。指導するスタッフの力量形成も行っていく。		医師会や栄養士会と連携し、今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。
						実績値	26.6	25.4	集計中					
							評価	遅れている	遅れている	実績値なし				

施策名：保健活動

- 生活習慣病予防の推進
- 高齢者保健の充実
- 感染症予防対策の推進
- 精神保健の充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(3.25) 重要度指数(4.00)	満足度指数(3.23) 重要度指数(3.95)
	エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	エリアⅣ 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	エリアⅡ 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

アンケート結果の分析	審議会意見
重要度が平均値以上となり、ポピュレーションアプローチ等により市民の方の意識が高くなっている。満足度も高く、健診や保健予防活動、食育推進事業などニーズにあった活動を行っているのではないかと考える。今後もより一層、充実した活動を行っていく必要がある。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
49	423	医療	浅間総合病院第二次整備事業進捗率	%	0 [H22]	100	目安 実績 評価	20	40	60	入札の不調により契約が2か月遅れたが、契約後の工程表に対する進捗状況の遅れはなかった。	音・振動により工事を休止せざるを得ない場合があるので、監理者・施工者との連絡を密にし、前倒して工事が進められるようにする。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
							4.55	7.00	18					
							やや遅れている	遅れている	遅れている					

施策名：医療

- 地域医療体制の充実
- 浅間総合病院の充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)		前回調査(平成24年度)		最新調査(平成26年度)	
	満足度指数(293) 重要度指数(457)		満足度指数(311) 重要度指数(427)		満足度指数(323) 重要度指数(431)	
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」		エリア II 満足度「高い」重要度「高い」		エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	
	⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策		⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策		⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	
	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度
	4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4	2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8	4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2	2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6	4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2	2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6
	平均値		平均値		平均値	
	満足度		満足度		満足度	

アンケート結果の分析	審議会意見
満足度は、調査を重ねるごとに上昇しており、また、平成26年度調査においては、前回に引き続き満足度、重要度ともに平均値も上回る結果となった。依然市民の関心が高いことから、今後も満足度、重要度を上昇させるために、現事業を継続していく。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらおう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでももらいたい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価 目安 実績 値 評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
50	424	医療保険・国民年金	国民健康保険税収納率(現年課税分)	%	90.26 [H22]	100	目安値 92	91.78	93.48	96 93.50	督促・催告状の発送・臨戸訪問・全職員での滞納整理、未申告者への申告勧奨を継続的に行っているが、大きな効果が見られなかった。	督促・催告状の発送・臨戸訪問・全職員での滞納整理、未申告者への申告勧奨を継続するとともに、専任徴収員を配置し、収納対策を強化する。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。

施策名：医療保険・国民年金

- 国民健康保険の健全運営
- 後期高齢者医療制度への対応
- 国民年金制度の適正な推進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(2.91) 重要度指数(4.32)	満足度指数(2.82) 重要度指数(4.24)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

アンケート結果の分析	審議会意見
重要度指数は4.28であり、国民健康保険、後期高齢者医療制度、年金制度に対する市民の認識は高いことがうかがえる。一方、満足度指数は3.01であり、重要度指数に比べると低い傾向にあるが、前回調査より微増している。わずかではあるが啓発活動の効果がうかがえる。今後も国民健康保険・年金制度についての周知を工夫するとともに、国保税の収納については専任徴収員を配置するなど、対策を強化する。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらおう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
51	431	母子保健	こんにちは赤ちゃん事業における新生児訪問率	%	96 [H22]	100	目安値	97	98	98	こんにちは赤ちゃん事業の周知は、母子手帳交付時、パパママ教室、出産での入院時、出生届出時の機会に実施している。また、訪問担当職員のアプローチ技術の向上により該当者に新生児訪問指導の必要性について理解を得られていると考える。	訪問担当職員の確保により、生後4か月以内の実施を強化していく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
						実績値	97.80	98.00	98.00						
						評価	順調	順調	順調						

施策名：母子保健

- 母子保健事業（乳幼児健診、乳幼児の予防接種など）の推進
- 思春期保健事業（いのちの尊さを学び母性父性を育む 機会の充実）の推進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(3.30) 重要度指数(4.21)	満足度指数(3.14) 重要度指数(4.07)
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策
	<p>重要度: 3.4 ~ 4.8, 満足度: 2.0 ~ 3.8. 平均値: (3.24, 4.07). エリア II.</p>	<p>重要度: 3.2 ~ 4.4, 満足度: 2.2 ~ 3.6. 平均値: (3.14, 4.07). エリア II.</p>	<p>重要度: 3.2 ~ 4.6, 満足度: 2.2 ~ 3.6. 平均値: (3.24, 4.04). エリア II.</p>

アンケート結果の分析	審議会意見
満足度指数、重要度指数は平均値より高い状況である。また、前回の調査より満足度指数が上昇している。これは研修等により、訪問担当者の技術が向上したことが要因と考えられる。重要度指数も高いため、市民のニーズ変化を把握しながら事業を展開していきたい。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
52			子育てサロンの延べ利用者数	人/年	7,908 [H22]	8,300	目安値 実績値 評価	7986 8,753 順調	8,065 8,857 順調	8,143 8,261 順調	育児講座や親子遊びの充実、また、広報やHPでの開催周知に努めたことで、目標値を上回る利用者数となった。	育児不安の軽減を図るため、利用者アンケート結果や要望をスタッフ会議で検討し、事業に反映する。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでほしい。
53	432	子育て支援・児童福祉	つどいの広場の延べ利用者数	人/年	15,099 [H22]	15,800	目安値 実績値 評価	15,239 14,370 遅れている	15,379 14,206 遅れている	15,520 15,264 やや遅れている	「運動遊び」や「ベビーマッサージ」など、参加者から要望の多い子育て講座を開催したことにより、少子化傾向の中、1回あたりの平均利用者数が前年と比べ5%増加した。(H25:614回、23.1人→H26:625回、24.4人)	・参加者の要望が多い「リトミック」や、対象範囲を幼児まで広げ「ベビー・キッズマッサージ」を開催する。 ・今後も参加者からのアンケート結果を基に改善点等についてスタッフ会議で検討し、参加者の増加を図る。 ・子育てサークル等の活動実態を把握し、場所を提供するなどの活動支援を行う。 ・県と連携し、仕事に対する不安や悩みを抱えた子育て世帯の女性に対する相談支援を行う。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてほしい。
54			児童館の延べ利用者数	人/年	303,975 [H22]	319,000	目安値 実績値 評価	306,980 280,265 遅れている	309,985 273,510 遅れている	312,990 277,110 遅れている	児童館で行う各種行事を、子ども達に計画・運営させたり、季節のイベントを取り入れるなど、子ども達が普段体験することができない行事を行ったことで、利用者数は昨年より増加した。しかし、少子化傾向に加え、塾通いなど、児童の放課後の過ごし方が多様化している背景から、目標値に届かない状況である。	今後も児童に行事の企画に参加してもらうなど、児童が継続的に楽しく来館できるような工夫を図るとともに、地域ボランティアとの連携や、各種研修への参加等による児童館職員の質の向上を図り、保護者が安心して子どもを児童館に通わせられる環境に努める。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてほしい。

施策名：子育て支援・児童福祉

- 子育て支援ネットワークの拡充
- 保育サービスの充実
- 児童館の整備と運営

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(3.30) 重要度指数(4.31)	満足度指数(3.20) 重要度指数(4.10)
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策

アンケート結果の分析	審議会意見
満足度指数が3.13で年々低下傾向にあることから、結婚・妊娠・出産・子育ての各段階において、個別ニーズに対応した施策を関係機関と連携して取り組み、満足度を高めていくことが望ましいと考える。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでほしい。

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
55	511	環境保全	市内家庭の総消費電力	Mkw/年	239,143 [H22]	191,315	目安値	229,577	220,012	210,446	省エネやクールシェア・ウォームシェアについての広報により、市民においても省エネ行動は意識されていると考えられるが、近年の異常な暑さや、積雪量の増加などもあり、生活習慣の中で必要なエネルギー使用量が一定化されてきている。	近年の異常な暑さや、積雪量の増加なども勘案しつつ、市の広報やホームページ、FM放送などにより周知を強化するとともに、省エネ住宅・省エネ機器の導入促進につながる助成などを検討目標達成のために広報を充実させる。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
						実績値	234,346	232,069	227,254					
							評価	概ね順調	やや遅れている	やや遅れている				

施策名：環境保全

- 総合的環境施策の推進
- 環境保全対策（地下水の保全や公害防止など）の推進
- 地球環境保全（省エネルギーや環境負荷低減）の啓発や実践

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)	アンケート結果の分析	審議会意見
		満足度指数(290) 重要度指数(431)	満足度指数(307) 重要度指数(407)	満足度指数(304) 重要度指数(403)	<p>前回の調査までは、満足度指数についても調査毎に増加していたが、最新(平成26年度)調査においては満足度、重要度ともにほぼ平均値となっている。これは続けてきた施策の達成結果とも言えるのではないかと考えられるが、今後については市民の意識や社会情勢なども勘案しながら、施策を実施していく必要がある。</p>
	<p>エリア I 満足度「低い」重要度「高い」</p> <p>⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策</p>	<p>エリア II 満足度「高い」重要度「高い」</p> <p>⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策</p>	<p>エリア III 満足度「低い」重要度「低い」</p> <p>⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策</p>		

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
56	512	街並み緑化・公園・景観形成	平尾山公園の入場者数	人/年	411,947 [H22]	420,000	目安値	413,558	415,168	416,779	H26年度は冷夏による影響、高速道路利用者の減少の影響による公園利用者の減少が見られた。	公園利用者の増加を図るため、公園のイベント、企画展等に対するニーズの把握に努め、より効果的な企画を実施するように、公園管理を行っている指定管理者と協議をする。また、公園開設から約20年が経過し、施設の老朽化が見られることから、公園施設長寿命化計画に基づき施設の更新を順次行う。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	
							実績値	386,238	348,927	332,810					
							評価	遅れている	遅れている	遅れている					
57			都市公園の整備面積	㎡/人	7.94 [H22]	9.82	目安値	8.32	8.69	9.07	市民交流ひろばの開園、佐久総合運動公園補助競技場等の整備により公園面積は増加している。	佐久総合運動公園の整備を計画通り進めていく。		今後もし引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
							実績値	8.11	8.49	9.00					
							評価	順調	概ね順調	概ね順調					

施策名：街並み緑化・公園・景観形成

- 公園の整備推進
- 公園の適正な維持管理と利用
- 水辺空間の整備
- 緑化の促進
- 良好な景観形成の推進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(2.84) 重要度指数(4.05)	満足度指数(2.93) 重要度指数(3.91)
	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況をみた取組が必要と考えられる施策	エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

アンケート結果の分析	審議会意見
市民交流ひろばを整備したことにより遊具の充実した子供たちが安心して遊べる広々とした公園というニーズが満たされたことで満足度が上がったと考えられる。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
58	521	環境衛生	家庭系ごみの排出量	t/年	21,384 [H21]	19,591	目安値	21,025	20,667	20,308	資源物と埋立ごみは減少傾向にあるが、雑がみ等資源に分別されるべきものが分別徹底されず、可燃ごみは増加している。	市民に対し、ごみの減量化、資源化、分別の徹底について、広報やホームページ、FMラジオ、ケーブルテレビ等を活用し啓発する。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
							実績値	20,297	19,621	19,487					
							評価	順調	順調	順調					
59	521	環境衛生	事業系ごみの排出量	t/年	5,296 [H21]	4,670	目安値	5,171	5,046	4,920	資源に分別されるべき雑がみ類の分別徹底がされず、可燃ごみが増加している。	事業系ごみ袋販売の際に市役所窓口で分別徹底指導や、前年度比排出量増加事業所へ直接指導するなど啓発を強化する。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	
							実績値	5,754	5,705	5,725					
							評価	遅れている	遅れている	遅れている					

施策名：環境衛生

- 廃棄物(ごみ)処理対策の推進
- し尿・汚泥対策の促進

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(282) 重要度指数(452)	満足度指数(316) 重要度指数(421)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

アンケート結果の分析	審議会意見
重要度指数は過去3回のアンケート結果とも4点以上であり、市民生活との関わりが大きく、重要な事業である。満足度指数は前回のアンケート結果よりも若干低下しているものの高く、継続的にごみの減量化等の施策を行い、満足度が向上するよう、引き続き効果的に施策を実施する。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
60	522	上水道	上水道有収率	%	84.0 [H22]	90.0	目安値	85	86	86	漏水調査等、有収率向上対策による効果とみられる。しかし、施設の老朽化等による漏水があるため今後においても低減に努める。	水資源を有効に活用するため、漏水防止の施策に継続して取り組み、漏水量の低減を図るとともに有収率の向上に努める。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
							実績値	84.2	83.7	83.8				
							評価	やや遅れている	遅れている	遅れている				
61			水源余裕率	%	16.2 [H22]	22.0	目安値	17	19	20	水源余裕率が増えた要因は、節水意識の向上や人口減少と思われる。年間使用量の減少に伴い、1日最大配水量が減少し、確保している水源水量の余裕ができた。	将来に向け安定した水の供給を維持していくため、適正な水源水量の確保に努める。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
							実績値	16.9	16.4	20.3				
							評価	概ね順調	遅れている	順調				

施策名：上水道

- 水資源の保全
- 上水道の整備・管理

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(359) 重要度指数(436)	満足度指数(345) 重要度指数(427)
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策

アンケート結果の分析	審議会意見
安全で安心な水の安定供給により、上水道事業施策は評価を得ていると思われる。日常生活に欠くことのできない水に係る上水道事業の重要性に対し理解、信頼が得られるよう積極的かつ、より効果的な事業の推進する。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
62			下水道整備面積	ha	2,931 [H22]	3,032	目安値 実績値 評価	2951 2946.3 概ね順調	2971 2952.8 やや遅れている	2992 2956.0 やや遅れている	平成26年度は西屋敷地区、荒宿地区など3.05haの整備を行い面積は増加しているが、現在統廃合事業を優先しているため、未普及の下水道整備は目標値を下回っている。	財政面も含めて未整備地区の優先順位を考慮し、整備促進を図っていく。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	
63	523	下水道	水洗化率	%	86.9 [H22]	90.9	目安値 実績値 評価	88 89.5 順調	89 90.6 順調	89 91.5 順調	未接続区域への整備が進み、宅内工事をする世帯が増加したため、水洗化率は順調に伸びている。	公共下水道区域の未接続世帯を対象に戸別訪問を実施し、水洗化の促進を図る。	目標達成	ただ戸別訪問すれば良いということではなく、つなぎ込みをするようしっかりと話をしてもらいたい。	
64			下水道使用料収納率(現年分)	%	96.8 [H22]	100	目安値 実績値 評価	97 97.11 順調	98 97.09 やや遅れている	99 97.17 やや遅れている	現年度分収納率は年々伸びているものの、一部の未納者が固定しているため、決定的収納率向上に繋がらなかった。	○連絡の取れない未納者に対する納付催告書の通知を行う。 ○口座振替及びコンビニ払いの推進を図る。 ○適正な不納欠損処理を行う。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	

施策名：下水道

- 公共下水道の整備と管理
- 下水道の健全経営
- 合併処理浄化槽の普及と管理
- 生活排水処理施設の統廃合

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)	アンケート結果の分析	審議会意見
		満足度指数(3.37) 重要度指数(4.34)	満足度指数(3.37) 重要度指数(4.15)	満足度指数(3.31) 重要度指数(4.12)	
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策		
				市民は下水道事業を重要と感じている。また、満足度が高いのは普及率が高いためと考えられる。今後は下水道への接続状況を見据える中で、未整備地区の整備促進を図っていく必要がある。重要度指数は4.12で下水道の必要性は認識されており、市民生活に欠かせない事業である。また、満足度指数も3.31と高い数値になっている。今後も引き続き安定経営の確保を図るとともに、処理施設の適切な維持管理に努めていく。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組んでもらいたい。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
65			自主防災組織設置区数	区	230 [H22]	239	目安値 実績値 評価	232	234	235	地域での会合に出向き、防災の重要性を訴えた結果が表れたと考える。	自主防災組織を現実的に設置できない地域への対応策を区長と相談し、安全・安心へ繋げる取り組みを図る。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
							順調	概ね順調	概ね順調					
66	611	防災	地域自主防災訓練実施区数	区	143 [H22]	239	目安値 実績値 評価	162	181	201	東日本大震災後、平成25年度に市で作製したハザードマップを全戸配布した結果、防災意識の高揚に繋がり、わずかではあるが上昇しているが、目標値は達成していない。	これまでは、組織編成だけに留まっていたが、新規に訓練に取り組みを始めた地域も微増している。いつくるかわからない備えではなく、いつか必ず来る備えに地域防災への高揚を図る。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
							134	122	145					
							遅れている	遅れている	遅れている					

施策名：防災

- 防災体制の強化
- 防災対策の推進
- 市民の防災意識の高揚
- 武力攻撃事態等における国民保護体制の整備

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(3.46) 重要度指数(4.44)	満足度指数(3.13) 重要度指数(4.14)
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策

アンケート結果の分析	審議会意見
<p>ハザードマップの作成や、出前講座などを実施することにより、満足度、重要度は共に高い水準にあるが、防災に対する満足＝油断に繋がりがかねない。あらゆる対策に傾注する中で、防災力の向上に努める。</p>	<p>今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。</p>

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
67		消防・救急	消防団協力事業所数	事業所	57 [H22]	100	目安値	66	74	83	H26年度にて、目標値に到達することができた。協力事業所に対する県税の優遇制度・市の入札優遇制度の効果や災害時における消防団の重要性が広く理解されたものと考えられる。	目標値に達したが、今後も引き続き消防団協力事業所の募集を呼び掛けを行っていく。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
			実績値	93	96	101								
			評価	順調	順調	順調								
68	612	消防・救急	火災発生件数	件/年	61 [H22]	25	目安値	54	47	39	火災発生件数については、H26年度68件(対前年度比プラス25件)であり、3月はその他(野火等)火災が16件(対前年度比プラス12件)と多発したが、H25年度は2月の大雪の影響で、農地等に雪が残り、土手焼きが遅れたことにより、火災が少なかったものと分析する。	火災発生件数は年度により一律な減少とはいかないが、目標値に向けて予防消防活動を行っていく。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
		実績値	64	43	68									
		評価	遅れている	順調	遅れている									

施策名：消防・救急

- 広域消防・救急体制の強化
- 地域消防体制の充実
- 市民・民間の防火体制充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)	アンケート結果の分析	審議会意見
	満足度指数(3.46) 重要度指数(4.44)	満足度指数(3.40) 重要度指数(4.21)	満足度指数(3.39) 重要度指数(4.25)		
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	満足度指数については、微減しているが依然高い数値を示しており、市民の消防署及び消防団に対する期待度の高さがうかがえる。 重要度指数は若干の増加傾向である。佐久消防署及び北部消防署の竣工に伴い、防災拠点施設が確立されたことにより、市民が暮らすまちとしての安心度の高さがうかがえるが、今後もこの数値が減少しないように事業を実施していく。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策		

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
69	613	交通安全	交通安全大会、各種講習会などの延べ参加者数	人/年	10,442 [H22]	16,000	目安値	11,554	12,665	13,777	市内幼稚園、保育園、小中学校及び各地区高齢者クラブに安全教室開催の要請を行った結果、実施回数、参加人員とも前年度を上回った。	交通安全市民大会、各種講習会等の開催要請を関係機関団体に対して行い、教育啓発活動を推進する。		これまでの実績から、成果の上がる方法を検討するなど、今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
実績値	15,563	11,068	12,968												
評価	順調	やや遅れている	概ね順調												

施策名：交通安全

- 交通安全環境の整備
- 交通安全意識の高揚
- 交通事故に関する相談・救済対策の充実

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)	アンケート結果の分析	審議会意見
		満足度指数(3.18) 重要度指数(4.31)	満足度指数(3.16) 重要度指数(4.09)	満足度指数(3.07) 重要度指数(4.17)	<p>満足度指数は、ほぼ平均値で小中学校、高齢者クラブ等への交通安全教室等の啓発活動が一定の評価を受けたものと思われるが、ポイントは前回調査より減少しており、交通死亡事故等の重大事故が減少していないことが原因と思われる。</p> <p>重要度指数は高く、交通事故は誰もが当事者となりうる身近な危険であることから、市民の関心が高いものと思われ、今後、交通弱者の保護等を行うことが満足度を更に上げるためにも重要になってくる。</p>
	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」		
	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策		

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
70	614	防犯	犯罪発生件数	件/年	1,079 [H22] (852)	835 (660)	目安値	1,030 (814)	981 (775)	933 (737)	刑法犯の認知件数は減少傾向であるが、振り込め詐欺等の特殊詐欺事件は、後を絶たない状況である。 (値は佐久警察署管内値のため。カッコ内に佐久市内値を記載)	夜間の犯罪防止のための防犯灯設置をはじめ、地域が一体となった防犯体制及び活動の更なる充実を図る。また、特殊詐欺事件対策として、警察、防犯協会等と連携し、被害防止を図る。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	

施策名：防犯

- 防犯体制・防犯活動の強化
- 防犯施設の整備

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(2.93) 重要度指数(4.38)	満足度指数(3.07) 重要度指数(4.10)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策	エリア II 満足度「高い」重要度「高い」 ⇒ 現状維持が妥当と考えられる施策	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」 ⇒ 力を入れる必要性が高いと考えられる施策

アンケート結果の分析	審議会意見
全国的に発生している振り込め詐欺等の特殊詐欺事件や子どもや女性を対象とした凶悪事件などを背景に重要度の高い施策となっている。平成24年度と比較すると微減であるが、平成22年度からの満足度は上昇していることから一定の政策効果は表れていると考える。今後も警察、防犯協会と連携し施策を実施していく。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
71	615	消費生活	消費生活展、街頭啓発、講習会などの実施回数	回/年	35 [H22]	60	目安値 実績値 評価	40	45	50	開催依頼を行っている老人クラブ対象の講習会が全クラブ中、半数に留まっていることから達成できなかった。	高齢者の特殊詐欺等の被害者が多いことから、市内全老人クラブに対して講習会の開催を更に働きかける。		老人クラブがない地区もあることから、他の団体、イベント等での開催も検討して欲しい。

施策名：消費生活

- 消費者保護対策（悪質商法契約など各種トラブルへの対策等）の推進
- 消費者意識の高揚
- 消費生活の改善

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)		前回調査(平成24年度)		最新調査(平成26年度)	
	満足度指数(294) 重要度指数(4.12)		満足度指数(304) 重要度指数(3.80)		満足度指数(3.09) 重要度指数(3.96)	
	エリア III 満足度「低い」重要度「低い」 ⇒ 状況を見た取組が必要と考えられる施策		エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策		エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」 ⇒ 力を入れる必要性が低いと考えられる施策	

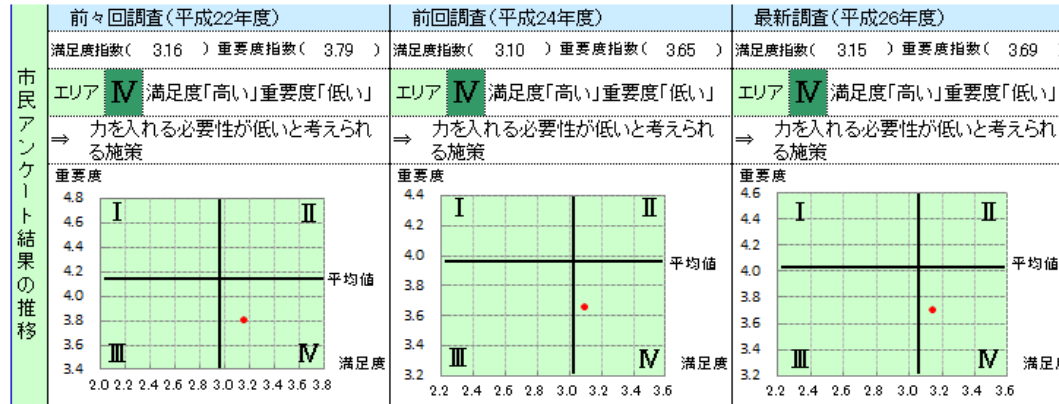
アンケート結果の分析	審議会意見
<p>満足度指数は、前回調査に比べ微増しており、佐久市消費生活センターによる相談について、一定の評価が得られたためと思われる。重要度指数は、「低い」となっているが、悪質商法被害等に対する市民意識が低調であるためと思われる。消費生活センターの周知と合わせ、悪質商法防止、特殊詐欺被害防止の広報啓発を推進する。</p>	<p>今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。</p>

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見			
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度								
72	621	協働のまちづくり	佐久市市民活動サポートセンター登録団体数	団体	- [H22]	300	目 安 値 実 績 値 評 価	60	120	180	登録団体増加のための広報活動を行ったが、前年と比較すると、1年間に登録した団体は減少した。年間に登録する団体数が横這い傾向である。	ホームページ、フェイスブックページ、機関誌等を活用し広くPRし、新しく立ち上げる団体の登録を推進する。		引き続き目標達成に向けて、登録を知らない団体もあると思われるので、今後の方針とおり、広くPRに努めてもらいたい。				
73			佐久市まちづくり活動支援金事業を活用する団体数	団体/年	- [H22]	10	目 安 値 実 績 値 評 価	2	4	6					交付対象経費が20万円以上の高額補助枠と、20万円以下の少額補助枠を設け、市民が利用しやすいように見直しを行ったため、活用団体が増加した。	まちづくり支援金の認知度を高めるため、積極的なPRを行う。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
74			各審議会など全体公募委員割合	%	3.2 [H22]	10.0	目 安 値 実 績 値 評 価	5	6	7								

施策名：協働のまちづくり

- 市民の市政参画機会の拡充
- 広報・広聴の充実
- 協働のまちづくりの推進
- 情報提供と個人情報保護



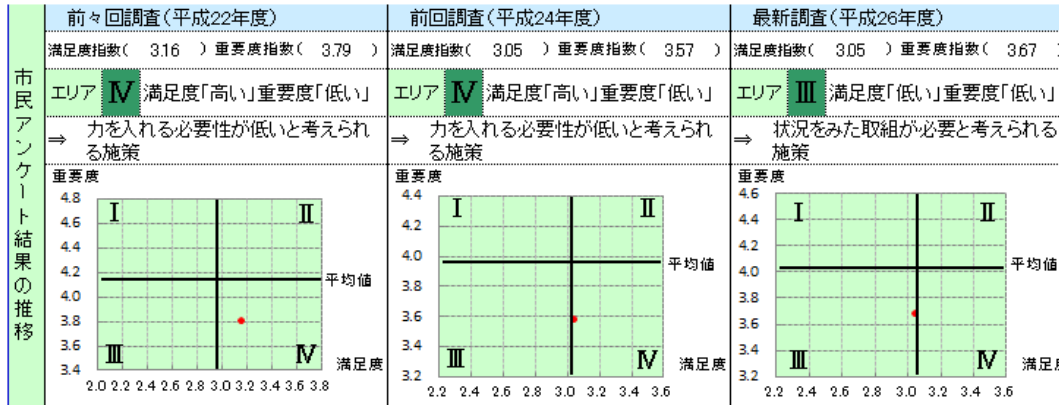
アンケート結果の分析	審議会意見
アンケートによる市民意識からは、必ずしもこの施策が重要視されていないように見受けられるが、ワークショップに参加する市民からは、安定生活に対する危機や不安が感じられるとともに、新しい公共を進めようとする動きがでてきている。このことから、市民活動サポートセンターを通じて、また、まちづくり活動支援金の活用を推進をして、協働のまちづくりを進めていく。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
75	622	コミュニティの育成	区への加入率	%	87.57 [H22]	90.00	目安値実績値	88	89	89	都市化の進展と共に、区への加入率も低下しており、共助の精神は希薄化する傾向にある。	魅力あるコミュニティ活動を支援するため、区の活動等に対して引き続き交付金を交付する。また、新たな連携の方法についても模索していく。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
						評価	遅れている	遅れている	遅れている					

施策名：コミュニティの育成

- 地域自治組織の育成
- コミュニティ活動環境(情報交換の促進や施設整備)の充実
- 住民主体のまちづくりへの支援



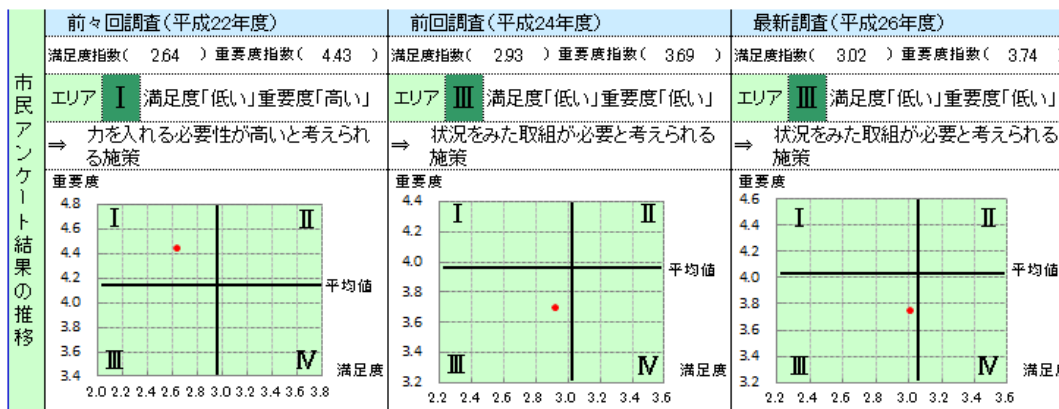
アンケート結果の分析	審議会意見
都市化の進展や核家族化による、地域のつながりの希薄化により、満足度、重要度も低くなったと考えられる。市民参加型市政を推進するにあたっては、協働のまちづくりが重要となり、それを支える地域コミュニティを充実、活性化するための支援は今後も必要と考える。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							備考	審議会意見		
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度	結果の分析			今後の方針	
76	623	公共施設	新規指定管理者制度導入施設数	施設/年	1	1	目安値 実績値 評価	1	3	1	1	佐久市温水利用型健康運動施設(新クリーンセンター・斎場整備推進室所管)について、DBO方式により選定された事業者を指定管理者として選定した。	指定管理者制度を適用させることにより、市民サービスの向上や経費の節減等が図れることから、積極的な制度の導入に向けた調整を行っている。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。

施策名：公共施設

- 公共施設の管理方法
- 公共施設の適正な配置と整備
- 公共施設の耐震化



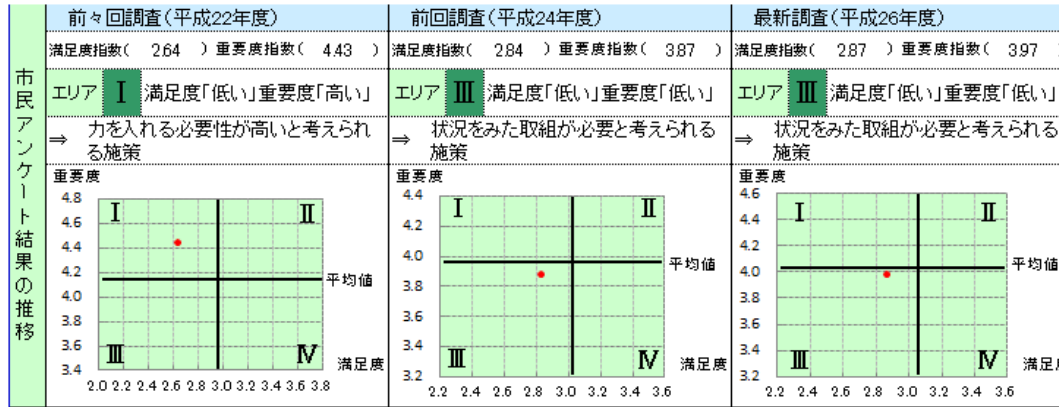
アンケート結果の分析	審議会意見
<p>満足度指数は、微増ではあるが前回とほぼ同様の数値であり、市の施策の中では低い結果となっている。これは、公共施設やインフラ等の老朽化が進んだことによる、既存施設に対する評価が表れたものと考えられる。</p> <p>また、重要度指数も微増ではあるが、依然として低い結果となっており、これは公共施設マネジメントの取組についての説明が不十分であり、市民の公共施設マネジメントに対する理解が進んでいない状況であると考えられる。</p> <p>今後は、市民に本事業の理解を求める場としての市民説明会や問題意識を共有してもらうための周知等を積極的に実施することにより、公共施設マネジメントの必要性を理解してもらうと共に、マネジメントの推進に向けた合意形成を進めていく必要がある。</p>	<p>今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。</p>

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
77	624	行財政	市税収納率(現年課税分)	%	97.25 [H22]	100	目安値 実績値 評価	97.80 97.86 順調	98.30 98.26 概ね順調	98.90 98.38 概ね順調	専任徴収員による戸別訪問徴収の実施や換価性の高い債権(給与、預貯金等)の重点的な差押の実施等により、概ね順調な結果となった。	引き続き滞納処分を強化していく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。

施策名：行財政

- 効率的な行政運営
- 効率的な財政運営
- 適正な人事管理と職員能力発揮
- 入札及び契約の適正化



アンケート結果の分析	審議会意見
満足度・重要度ともに前回からほぼ横ばいであった。市の施策の中ではともに低い結果となっている。これは、行財政が市民生活に直接関わりのある施策ではないことから関心の低さが、評価の低さにもつながっているものと思われる。 今後も積極的な行政改革に取り組むとともに、その取組について丁寧な説明を行っていくことにより満足度の上昇を目指す。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	審議会意見
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	評価	平成24年度	平成25年度	平成26年度				
78	625	広域連携	定住自立圏による事業実施数	事業	- [H22]	25	目安値 実績値 評価	5 31 順調	10 32 順調	15 32 順調	具体的な取り組みの開始から3年目を迎え、制度がより浸透したことにより、事業実施が順調に行われている。	引き続き関係市町村との連携・協力を図り、定住自立圏による事業を推進していく。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。

施策名：広域連携

- 広域行政の推進
- 定住自立圏構想の推進
- 広域行政の組織機能強化

市民アンケート結果の推移	前々回調査(平成22年度)	前回調査(平成24年度)	最新調査(平成26年度)
		満足度指数(2.64) 重要度指数(4.43)	満足度指数(3.04) 重要度指数(3.56)
	エリア I 満足度「低い」重要度「高い」	エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」	エリア IV 満足度「高い」重要度「低い」
	⇒ 力を入れる必要が高いと考えられる施策	⇒ 力を入れる必要が低いと考えられる施策	⇒ 力を入れる必要が低いと考えられる施策
	重要度 4.8 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 2.0 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 3.8 満足度	重要度 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度	重要度 4.6 4.4 4.2 4.0 3.8 3.6 3.4 3.2 2.2 2.4 2.6 2.8 3.0 3.2 3.4 3.6 満足度

アンケート結果の分析	審議会意見
満足度指数は前回調査に比べて微増しており、ほぼ平均値であるため、広域連携について一定の評価が得られていると思われる。 また、重要度指数は前回調査時より微増しているが、平均値より低い値となっている。これは佐久広域連合による事業実施や佐久地域定住自立圏共生ビジョンが策定され、取り組みが一般的になったためであると考えられる。	今後も市民に施策の重要性を理解してもらうよう努めるとともに、市民満足度が上がるよう取り組みを進めてもらいたい。

第一次佐久市総合計画後期基本計画「チャレンジ!!」の進行状況(まとめ)

※ 事務局による類型
 ■: A 「チャレンジ!!」達成済
 ■: B 具体的取り組みを実施中
 □: C 未着手(取り組みを検討中)

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥

施策コード	施策名	チャレンジ	平成26年度の取り組み		今後の方針	審議会意見
			類型 ※	取り組み状況		
111	文化・芸術	文化関連施設が連携して、新たな事業に取り組むことにより、施設の魅力を高め、利用者の増加と文化振興を図ります。	B 具体的取り組みを実施中	文化施設館長会議で情報交換を行い、各施設の連携した取り組みとして文化施設スタンプラリーを試行したが、利用・入館者の増加等に効果は見られなかった。	館長会議を継続し、所属全施設ではなく、2~3施設が連携した企画を充実させる。全施設掲載の案内パンフレットを作成し、広報に努める。施設間を運行するバスの運行を検討する。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
112	地域間交流・国際交流	交流人口創出プログラムの実施により、1000万交流圏の観光・文化・スポーツ交流拠点づくりを推進します。	B 具体的取り組みを実施中	移住等希望者への様々な情報発信により、移住交流の促進を図った。また、友好都市等との交流事業では、首長、議長はもとより、民間レベルでの各種交流事業を促進した。	空き家バンクの充実により、移住等希望者の受け入れを図る。また、友好都市等との各種交流事業の推進により、交流人口の増大を図る。	記載の取り組み状況、今後の方針に加え、交流人口の創出には観光等の分野も大きく寄与するため、施策推進を図ってもらいたい。
113	人権尊重社会	すべての市民がお互いを尊重し、思いやる差別事象0(ゼロ)のまちを目指します。	B 具体的取り組みを実施中	・差別事象ゼロを目指し、小学生を対象とした「人権の花運動」(H26は2校)や、広く市民を対象とした人権同和教育講座(参加者536人)を開催した。また、教職員やPTA・企業の皆さんを対象とした研修会等を開催し人権意識の醸成と意識改革を図った。 ・隣保館では生活文化の向上と、人権意識の高揚、住民福祉の向上を目指し、啓発・広報活動の実施及び各種教室を開催し交流を図った。生活相談員の配置により相談体制の充実・強化を図った。	・差別やいじめ、虐待等による人権侵害をなくすため、各種事業を推進し、人権感覚の醸成と意識改革を図っていく。 ・隣保館では各種事業において啓発活動を推進し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図っていく。また、生活相談員による相談体制の充実を図っていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
114	男女共同参画社会	DV被害にあった時に、市役所に相談窓口があることを知っている市民の割合が100%になることを目指します。	B 具体的取り組みを実施中	佐久市ホームページを通じて女性相談窓口を周知した。その他、他課や他機関が発行・掲載している相談窓口情報を活用して周知を行った。また、国や県、医療機関からの照会に対し、女性相談員の配置についてPRした。	今後も様々な媒体、及び県、圏域のネットワークによる連携を図り、啓発を行っていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
122	学校教育	中学校区ごとの教育推進会議を中心に、小学校から中学校に子どもたち一人ひとりの教育成果・課題をスムーズに引き継ぎ、小中学校間で指導の方針や方向を共有して、義務教育9年間の学びの充実を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	中学校区ごとの教育推進委員会により、小中学校間での日常的な交流の推進を図った。特に、中学校の英語科教師とALTによる小学校での出前授業、中学校区内の小中学校教師の合同研修など中学校区ごとに工夫して取り組んだ。	中学校区ごとの取り組みを継続するとともに、市教育委員会では、児童生徒の一層の学力向上を願い、学力向上会議、(小中学校)研究主任会議などを通じて教師の指導力の育成を図っていく。また、一人でも多くの不登校生が学校に戻ることができるよう不登校となっている子どもたちを温かく支援していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
123	高校教育・高等教育	本市の環境を生かした高等教育機関の誘致など、高等教育機会の拡充を促進します。	B 具体的取り組みを実施中	高等教育機会の拡充策として、奨学金の貸付を通じた高等教育への就学支援を行った。	高等教育機会の拡充を推進するため、奨学金制度がさらに活用されるよう検討する。また、市内高等教育機関との連携を図る。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

施策コード	施策名	チャレンジ	平成26年度の取り組み		今後の方針	審議会意見
			類型 ※	取り組み状況		
124	青少年の健全育成	家庭・学校・地域・関係団体との連携を強化し、青少年を健全に育成する地域ぐるみの取り組みを充実させます。	B 具体的取り組みを実施中	家庭・学校・地域・関係団体との連携を強化するためには、育成推進員・補導員としての自覚を持ち、地域へ出て広く市民に青少年健全育成活動を広げて行くことが重要である。そのためには各委員の資質の向上が不可欠となるので、研修会や関係団体との合同活動等を実施した。また、青少年健全育市民集会の実施により、広く市民に啓発した。	今後も研修会や合同活動等の場を提供し育成推進員・補導員が地域で十分な活動が出来るよう支援することで、取組を充実すると共に、引き続き青少年健全育市民集会を実施し市民に啓発していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
131	生涯学習	周辺市町村との連携により、公共図書館の広域ネットワークの構築を目指します。	C 未着手(取組みを検討中)	佐久地域定住自立圏検討部会(社会教育部会)において、定住自立圏により推進する具体的取組としての項目であるが、構成各市町村において、市町村独自のシステムの構築・導入が進んでいる中、取組みないとした市町村も多く、すぐに取り組むことは難しい状況である。県での横断検索システムや、公的図書館間における相互貸借の機能が確立されている中、現状やネットワークシステムの構築の必要性等について確認、検討した。	各市町村において、図書館システムの構築方法、契約年数等、また利用登録についての制限等の違いや意向があるため、現状では難しい状況である。今後、時間をかけ検討する。	周辺市町村との合意形成ができるよう、引き続き協議を進めてもらいたい。
132	スポーツ	全国大会などで活躍が期待される競技者の育成を促進するとともに、一流のスポーツに触れ感動する機会の充実を図ります。	B 具体的取り組みを実施中	A C長野パルセイロのホームゲーム11回開催を広報やFM佐久平を活用して地域に呼びかけを行った他、サッカー元日本代表選手によるドリームマッチを開催し、約4,000人が一流のスポーツに触れ、感動する機会の提供を行った。	佐久総合運動公園陸上競技場や総合体育館、整備予定の武道館を活用し、競技者の育成を図るとともに、一流のスポーツに触れる機会を企画立案していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり

施策コード	施策名	チャレンジ	平成26年度の取り組み		今後の方針	審議会意見
			類型 ※	取り組み状況		
211	高速交通ネットワーク	松本・佐久間の地域高規格道路の建設実現を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	松本地域、上小地域及び佐久地域を地域高規格道路で結び、各地域の交通と産業経済の発展を図るため、関係団体によって同盟会を組織し、要望活動を行った。	地域高規格道路としての指定について、新たな進展はありませんが、引き続き県へ要望を行い実現に向けて活動していく。	早期実現に向けて、現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
212	地域交通ネットワーク	市民の日常生活に必要な交通移動手段を確保・維持するため、民間交通事業者、市民と一体となって地域公共交通の充実に取り組みます。	B 具体的取り組みを実施中	運行状況の検証等に基づく運行ダイヤ・運行経路の改正、利用者対象の乗車ヒアリング調査、アンケート調査、利用促進のための体験乗車会の開催等を行い、利用者の利便性の向上に努めているが、平成26年の延べ利用者数は、102,956人であり、利用者は減少傾向となった。自家用車の使用が主流の市において、公共交通の利用促進を理解していただくことが課題となっている。	今後高齢化社会が進展し、自家用車等交通手段を持たない交通弱者が増加し、公共交通の需要は今後高まっていくと予想されることから、乗車検索システムの導入やまちづくりと連携した将来に亘って持続可能な公共交通体系を目指して「佐久市地域公共交通網形成計画」を策定し、より有用性の高い公共交通体系を構築する。	現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
221	土地利用	産業の活性化、雇用の増大を目指し、土地の有効利用を促進します。	B 具体的取り組みを実施中	国土利用計画の方針に沿って商業集積及び企業誘致が図られるよう市内適地について、全庁横断的な体制で、協議・検討を行った。	中部横断自動車道の佐久南IC以南の開通や北陸新幹線の延伸により、商業集積及び企業誘致に好機となる時期であるので雇用増大につながる土地利用を全庁的に推進していく必要がある。	現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
222	市街地	都市計画マスタープランに基づき、地域の特性を生かしたまちづくりを進めます。	B 具体的取組を実施中	土地区画整理事業は、小規模で事業効果が得られる箇所や手法を検討している。北中込土地区画整理事業では、地権者3名の同意を得た。これにより区画整理事業計画が策定され、市道の変則交差点の解消と、沿道土地利用の増進を図る。	北中込土地区画整理事業の工事着手がされる。	平成26年度事業実施箇所の北中込は市役所もあり、佐久市の玄関口と言える。現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
223	住宅・宅地	公営住宅の管理方法について、指定管理者や管理代行制度などを研究し、効果的な手法を導入します。	B 具体的取り組みを実施中	市営住宅1,131戸（公営住宅881戸、改良住宅63戸、厚生住宅129戸、特定公共賃貸住宅26戸、その他住宅32戸）の緊急修繕、計画修繕等の維持管理及び、使用料徴収等を管理代行及び指定管理により長野県住宅供給公社に委託した。	今後も委託先である長野県住宅供給公社と連携を図り、市営住宅入居者の住環境の保全と、使用料徴収率の向上を目指す。	現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
231	高度情報通信ネットワーク	市内の（市外でも）どこでも市役所とつながる、「電子自治体」を実現します。	B 具体的取り組みを実施中	電子申請の活用を啓発し、電子申請の手続きができる項目数の増加を図った。 H25年度実績 28項目 H26年度実績 31項目	年々利用者も増加していることから、市民のニーズは高いと思われるので、より一層利用できる項目数の増加と利用促進の広報を行っていく。	現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出

施策コード	施策名	チャレンジ	平成26年度の取り組み		今後の方針	審議会意見
			類型 ※	取り組み状況		
311	農業	本市の風土や条件に適した新品目の導入を図ります。	B 具体的取り組みを実施中	新品目導入試験圃場においてカモミールの栽培、冬至かぼちゃ、佐久古太きゅうり等の収益性の高い転作物の実証と新技術の導入試験を実施するとともに、見学会、体験会を開催し、普及啓蒙を図った。	試験圃場における、収益性の高い転作物の実証と新技術の導入試験を継続実施するとともに、優良品種の選定や栽培方法の実証を進める。また、新たな佐久市ブランド品の育成を行う。	現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
312	水産業	佐久鯉の消費拡大のために、新しい調理法や新商品を開発します。	B 具体的取り組みを実施中	佐久市調理師会において、鯉のかば焼き丼の商品開発を行い、今後、販売化に向け各飲食店への情報提供を行う。	商業・観光業と連携し、水産業の多面的な振興を図る。	現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
313	林業	地場産材であるカラマツ材などを公共施設などに活用し、地場産材の利用を推進します。	B 具体的取り組みを実施中	平成24年度に策定した「佐久市公共建築物・公共土木等における木材利用促進方針」に基づき、市が行う公共事業は、出来る限り地域材を利用することを関係課へ周知したことにより、施設建設の際に地域材が利用された。	市が実施する公共事業における地域材利用の推進を通じて需要が生まれることにより、森林整備を促進していく。	現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
321	商業・サービス業	商店会組織の機能強化と活性化を図り、地域商店街の魅力を向上させます。	B 具体的取り組みを実施中	各商店会組織が行う「まちおこし事業」等に対して、継続して支援を行なった。また、地域商店街活性化法の認定を受けた岩村田本町商店街振興組合及び中込商店会協同組合については、国の補助対象事業に上乘せ補助することにより、集中的に支援を行なった。	引き続き、商店街が自主的に実施する各種事業に積極的に支援するとともに、空き店舗解消のための補助金により、魅力ある商店街の形成を図る。	現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
331	観光	市民交流ひろばを活用した大型観光イベントを実現します。	B 具体的取り組みを実施中	北陸新幹線開業に伴う北陸方面への観光宣伝として、熱気球を使ったイベント参加を実施した。軽井沢からの誘客として、FM軽井沢の出演や観光施設などへの誘客PRを実施した。各種連絡協議会等の広域的連携による観光宣伝を実施した。市民交流広場でのバルーン搭乗体験による誘客宣伝を実施した。	首都圏、北陸方面、中京圏などの各種イベントに参加したうえで、積極的に観光誘客宣伝を実施していく。また、協議会等を有効に活用し効果的なPR活動を進めていく。	現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
341	工業	企業立地を実現させるとともに、医療・健康・福祉関連産業の創出と集積を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	企業立地については、産業立地推進員の企業訪問等による迅速な対応の結果、平成25年度に1社、平成26年度に1社の立地に成功した。しかし、製造工場の海外移転等が進み国内での企業誘致は大変厳しい状況にあるため、業種を絞った企業誘致が行えていない状況である。既存企業の新産業創出のためのものづくりへの支援も実施した。	国内での立地動向がある内需産業としての、食品、医療、健康、物流への企業訪問を増加し、企業立地を推進するとともに、既存企業への新産業創出を支援していく。	現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
351	就労・雇用	地域内の働く場と雇用機会を確保し、新規卒者の地元企業への就職を促進します。	B 具体的取り組みを実施中	雇用確保・安定のために、関係機関との連携も含めて、支援を行った。	雇用情勢は改善しつつあるが、商工業だけではなく、農林業や介護・福祉などの新たな成長産業などへも、その時の状況に対応した支援策を検討していく。	現在の取組を「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成

施策コード	施策名	チャレンジ	平成26年度の取り組み		今後の方針	審議会意見
			類型 ※	取り組み状況		
411	福祉のまちづくり	全地区が災害時住民支え合いマップを完成し、必要に応じて見直し更新を行います。	B 具体的取り組みを実施中	平成26年度末において、240区中231区でマップが作成された。	今後も社会福祉協議会等を通じて、マップ未作成の地区において作成をしていく。また、作成された地区においてはその見直しを進めていくよう推進し、災害時に区長や民生委員と連携し、支え合いマップが有効に活用できるように、マニュアル整備など関係者と検討していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。マップは作成して終わりではなく、いかにそれを有効活用するかという視点で取り組んでほしい。
412	高齢者福祉・介護保険	介護予防事業を通じ、健康寿命を延ばします。	B 具体的取り組みを実施中	介護予防事業を22事業実施した。そのうち、後期高齢者の介護予防や健康の維持増進について指導を行う「75歳おたっしや訪問指導」は821人実施した。一般高齢者向けの参加型事業は、「はつらつ音楽サロン」「転倒骨折予防事業」「元気向上教室」など7事業を実施し、実人員2304人の参加があった。また、保健師・栄養士・健康運動指導士が地区に出向き、介護予防の講話や実践指導を実施した。	医療・介護・保健・福祉の各分野の連携を図り、高齢者が自立した生活ができるよう支援していく。また、高齢者自身が支え手になり、介護予防を実践していける体制を整備・推進していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
413	障がい者福祉	障がい児・者及び家族に対するライフステージに応じた一貫した相談支援体制の充実を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	相談支援の充実のために、相談支援専門員の拡充を事業所連絡会等で働きかけた。平成26年度末の相談支援事業所数は14、相談支援専門員は27名であり、昨年度より2事業所、7名増加した。また、発達の進み方の気になるお子さんの切れ目ない支援のため、児童の生育・医療・支援内容を記録するサポートブック「虹のかけはし」を配付した。	障害福祉サービス利用者に対して、障がい者の社会参加・就労支援のための相談支援体制を充実させるため、引き続き相談支援事業所連絡会等において相談支援専門員の研修の受講についての依頼をしていく。（目標数値：平成28年度相談支援事業所数20、相談支援専門員29名）「サポートブック虹のかけはし」については、今後も周知及び活用の推進を図るとともに、内容の見直しを図っていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
421	健康増進	食育を通して食を大切にすることを育み、朝食を毎日食べる小学生・中学生の割合を100%にします。	B 具体的取り組みを実施中	佐久広報において食育だよりを掲載し、啓発活動を行った。保育園・学校において食育活動を実施し、朝食摂取の必要性を啓発した。	保育園や学校において、食育応援隊による食育活動を強化していく。市民全体に食育の必要性を啓発する。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
422	保健活動	住みやすい社会を目指し、多様な悩みを抱える方を支援する絆を拡大するなど、「生きるための支援」に取り組むことにより、自殺者0人を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	・毎日の電話相談事業として「こころのほっとライン佐久」を開設し、H26よりフリーダイヤル化した。 ・毎月1回「こころの相談日」を設け、相談事業を実施した。 ・「ゲートキーパー養成講座」・「心の健康づくり講座」を開催し自殺防止の啓発活動を行った。	・今後も相談事業は継続する。 ・関係機関、周辺市町村とも連携して啓発活動を実施する。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成

施策コード	施策名	チャレンジ	平成26年度の取り組み		今後の方針	審議会意見
			類型※	取り組み状況		
423	医療	市民・地域・医療機関との連携・協力を進め、日常の生活圏において必要なときに必要な医療サービスを受けることのできるよう地域に密着した地域完結型医療を構築します。	B 具体的取り組みを実施中	平日夜間や休日小児の初期救急医療を確保するため、浅間総合病院内に急病診療センターを開設している。また、初期救急から3次救急までの安定的な医療提供体制を確立するため、佐久総合病院再構築を支援するとともに、佐久医療センターと他の医療機関の役割分担について、市民理解を得る取り組みを進めてきた。	今後も急病診療センターを継続して開設する。医療連携協議については、佐久医療センターと他の医療機関の役割分担が明確になる中で、医療の安定供給を促すための連携協議を継続するとともに、正しい医療機関のかかり方等について、引き続き市民に対する啓発活動を継続する。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
424	医療保険・国民年金	特定健康診査の受診率を65%まで引き上げます。	B 具体的取り組みを実施中	受診の必要性についての啓発に力を入れ、広報誌掲載（3回）やFMさくだいらの「佐久市からのお知らせ」出演（1回）による呼び掛け、未受診者に対する電話（1,747件）・はがき（11,615通）による呼び掛け、10月の受診勧奨月間に合わせた街頭PRのほか、被保険者証一斉更新時に啓発チラシの同封などを行った。受診率は37.1%（H25確定値）から35.7%（H26.6末現在見込値）へ下落しており、啓発活動については新たな対策が必要である。	左記の取り組みに加え、未受診者が多い若い世代が多数所属する商工団体や、JA団体及び各種団体が行う会合等に出向き、健診の重要性を伝える取り組みを実施する。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
431	母子保健	父母への啓発活動の強化などにより、乳幼児健診受診率100%を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	乳幼児健診で愛着形成を視点においた指導、助言、衛生教育を実施した。受診率向上のためきめの細かい周知や個別の連絡に取り組んだ。	母子保健事業は、子どもを安全安心に産み育てるための基本事業であるため、今後も社会情勢等の状況を踏まえ、事業を展開していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
432	子育て支援・児童福祉	本市の合計特殊出生率を1.6から1.9まで伸ばします。	B 具体的取り組みを実施中	子育て支援事業は120事業の各種施策を実施した。その中でも、つどいの広場事業は、地域の子育て支援拠点施設として、子育て中の親子の交流の機会や子どもの遊び場の提供、また、子育て専門相談員による子育てに関する悩みの相談・助言など、育児不安解消に向けた支援の充実を図ることができた。また、延長保育や一時保育、障害児保育、休日保育等についても、多様なニーズに対応した保育サービスを提供することができた。	合計特殊出生率の上昇に資するよう、今後も各種施策を実施することにより、安心して生み育てることができるよう子育て支援環境を提供していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出

施策コード	施策名	チャレンジ	平成26年度の取り組み		今後の方針	審議会意見
			類型 ※	取り組み状況		
511	環境保全	市内の自然エネルギーを用いた電力自給率、3%を目指します。	A 「チャレンジ!!」達成済	平成25年12月末の時点で、市内における自然エネルギーを用いた電力自給率は、4.52%であり、平成26年度末では「佐久市環境エネルギー重点プラン」で定めた目標値8%を概ね達成できる見込みとなった。市内への太陽光パネルの設置増加や、市営メガソーラー発電所の建設、太陽光パネル等への補助金交付による成果が出たものと考えられる。	新たに策定した「佐久市環境エネルギー重点プラン」に基づき、平成29年度までに市内の再生可能エネルギーを用いた電力自給率8%を達成した場合における、更なる目標値を検討しながら太陽光発電設備に対する助成制度や、木質バイオマスの利活用、小水力発電設備の導入など、自然エネルギーを活用した施策を実施していく。	新たな目標が達成できるよう、さらなる努力を期待したい。
512	街並み緑化・公園・景観形成	アダプトシステムによる公園管理の実施率を36%まで向上させます。	A 「チャレンジ!!」達成済	管理委託をしていた行政区等に対するアダプトシステムへの移行の働きかけや佐久広報、市ホームページで募集を行い、25年度末で27公園（43%）で実施したが26年度においては、参加団体の都合により1公園減少となった。（41%）	アダプトシステムの実施率は41%と減少したものの、地域の緑化に関与する意識は高まっている。新たなアダプトシステム参加団体を確保できるよう活動をHP等で紹介しながら働きかけていく他、必要となる用具や資材の貸与または支給を行うなど実施団体への援助を引き続き行っていく。	新たな目標が達成できるよう、さらなる努力を期待したい。各地域の公園の管理方法については、地域が愛着を持って管理できるよう、どのような管理体制が適正なのかを検討して欲しい。
521	環境衛生	1人1日あたりのごみ排出量が少ない都市、全国1位を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	ごみの減量について、生ごみ処理機等購入費の補助、マイバック運動、リサイクルと再使用の促進及び事業系ごみの分別減量化と資源化等を継続的に推進し、啓発に取り組んだ。	平成25年度の1人1日あたりのごみの排出量は692g/人・日で、ごみの排出量が少ない都市全国第4位（人口10万人以上50万人未満・環境省一般廃棄物処理実態調査による）で、第1位との差は58g/人・日であるため、引き続き排出抑制リデュース・再使用リユース・再生利用リサイクルの3R運動の推進に取り組んでいく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
522	上水道	水を自然流下方式で配ることができる地形を生かしながら、太陽光発電を導入するなどにより、環境に配慮した水道を構築します。	B 具体的取り組みを実施中	電気エネルギーなどの使用を抑制するものとして、自然流下方式を生かした配水方法を継続し、ポンプによる加圧給水は必要最低限で運用した。	太陽光エネルギーによる節電対策、自然流下方式による配水を継続し、引き続き、環境に配慮した水道の構築を促進していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
523	下水道	市内の全戸水洗化を図ります。	B 具体的取り組みを実施中	平成22年度より、下水道供用開始区域の未接続世帯を対象に水洗化促進の戸別訪問を行った。	今後も戸別訪問を継続し、未接続の理由を分析し、水洗化率の向上を図る。	ただ戸別訪問すれば良いということではなく、つなぎ込みをするようしっかりと話をしてもらいたい。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

施策コード	施策名	チャレンジ	平成26年度の取り組み		今後の方針	審議会意見
			類型 ※	取り組み状況		
611	防災	地域ごとの特性を考慮した防災対策を推進し、地域防災の強いまちをつくりまします。	B 具体的取り組みを実施中	自主防災組織は、地域コミュニティが重要度を占めるため、防災の高揚を図るために出前講座等を通じ、各地域等で積極的な講演会等を展開した。	引き続き、「自助・共助・近助・公助」の役割について、各防災関係機関及び自主防災組織の防災組織体制力の向上を図る。更に、防災告知について、費用対効果等を検討し、充実を図る。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
612	消防・救急	消防・救急体制を充実し、市民の財産・生命を守ります。	B 具体的取り組みを実施中	佐久消防署、北部消防署の庁舎新築及び消防指令センターの整備が完了し、消防・救急体制の充実が図られた。	佐久消防署、北部消防署の庁舎については、平成26年度に竣工し、併せて消防指令センターの整備についても平成26年度に完了した。今後は、訓練塔の建設について平成31年度に竣工する予定である。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
613	交通安全	交通事故死者数0(ゼロ)のまちを目指します。	B 具体的取り組みを実施中	幼稚園、保育園、小中学校、老人クラブ等における交通安全教室の開催、交通安全市民大会の開催、交通安全運動と連動した交通指導所の開設、年末における飲酒運転撲滅パトロール等警察をはじめとした関係機関団体と協力して活動を行った。	交通安全運動に伴う交通指導所の開設、交通弱者を対象とした交通安全教室の開催、佐久市交通安全市民大会の開催により、交通事故防止の啓発活動を推進する。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
614	防犯	地域防犯体制の充実と地域住民の防犯意識の高揚を図り、犯罪のないまちづくりを推進します。	B 具体的取り組みを実施中	防犯体制については、佐久市防犯協会等の団体と連携し、地域の防犯組織が年間を通じて活動した。その活動を通して、住民の防犯意識の高揚を図った。	引き続き、行政、防犯協会、警察、教育機関、PTAなど関係機関の連携を強化し、市民総ぐるみの防犯体制、防犯環境を整備していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
615	消費生活	振り込め詐欺などの消費被害の根絶を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	・佐久市消費生活センターによる消費者問題相談業務を推進した。 ・市内老人クラブに対し、高齢者悪質商法被害防止教室を開催した。	特殊詐欺等による高齢者の被害が増加傾向出ることから、引き続き高齢者に対する被害防止教育を実施していくとともに、身近な犯罪で金銭的被害も大きいことから、市民に対する啓発活動を推進し関心を高めていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
621	協働のまちづくり	佐久市市民活動サポートセンターを拠点として、市民活動支援のための情報ネットワークを構築し、人と人を結ぶ心豊かなまちをつくりまします。	B 具体的取り組みを実施中	サポートセンターを設置し、ワークショップに参加した市民で構成された市民団体に運営業務を委託した。公設民営による運営の利点を活かし、市民目線での支援業務を行った。様々な市民活動を結びつける核となることを目指し、市民活動に関する情報の収集・発信、相談・コーディネート、活動場所の提供等の業務を実施した。	今後も、情報の収集・発信、相談・コーディネート等の基幹機能の充実・強化に努め、市民を支援するために、市民活動の情報ネットワークを推進する。また、市民活動の活性化を図るため、様々な活動団体や市民の交流の機会を提供し、また各種講座を開催する。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
622	コミュニティの育成	一人ひとりの活力により、市民同士による共助と地域の魅力を高めます。	B 具体的取り組みを実施中	コミュニティの活性化のため、区への交付金交付を行った。区長会と行政の懇談の機会を設けるなど、連携強化に努めた。	都市化の進展と共に、区への加入率も低下しており、共助の精神は希薄化する傾向にあることから、区への活動への参加について理解が得られるよう努めていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上(続き)

施策コード	施策名	チャレンジ	平成26年度の取り組み		今後の方針	審議会意見
			類型 ※	取り組み状況		
623	公共施設	統廃合も含めた公共施設の適正配置と効率的な運営や維持管理を進めます。	B 具体的取り組みを実施中	平成25年度に「佐久市公共施設白書」及び「佐久市公共施設マネジメント基本方針」を公表した。平成26年度は市民の公共施設に対する潜在的なニーズや意識を把握するための市民アンケートを実施し、また、市職員に対しては公共施設に対しての問題意識を共有するため、職員研修を実施した。	公共施設マネジメントを進めていくにあたり、市と市民が課題を共有し、互いに協力して取り組んでいくことが重要となるため、関係機関や地域で活動している住民等、多くの関係者に参画してもらう場を設け、合意形成を図っていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
624	行財政	自主財源の確保対策などにより、財政力指数の向上を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	財政力指数の向上のためには、自主財源の確保が重要であることから、主たる自主財源である市税等の増額を図るため、企業支援や企業誘致など仕事と雇用の確保に資する事業に対し、予算の重点配分を行った。	企業誘致等の施策が徐々に成果を上げつつあることから、今後も仕事と雇用の確保に資する事業に対し引き続き予算の重点配分を行い、「佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に示す「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼ぶという好循環の確立により自主財源の増加を図ることで、財政力指数の向上を目指していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
625	広域連携	佐久地域の中心市としての役割を果たし、佐久地域全体の魅力向上と一体感のあるまちづくりを進めます。	B 具体的取り組みを実施中	平成23年度に策定した佐久地域定住自立圏共生ビジョンに基づき、関係市町村との連携事業を推進した。また、事業等の見直しを定期的に行い、対象事業の拡大を図り、地域全体または必要な市町村で実施した。	関係市町村との連携・協力による取り組みを推進し、圏域全体の生活機能やネットワークの強化を図る。佐久地域定住自立圏共生ビジョンの見直しを行い、社会情勢の変化に対し柔軟な対応をする。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

評価の仕組みについて

評価方法

整理番号	部会名	指摘箇所	指摘事項等
1	第1・3部会	チャレンジ	「チャレンジ！！」は各施策が目指すべき姿ということだが、進行状況も捉えにくく評価の対象とするのは難しいので、評価の仕方を見直した方が良いのでは。
2	第2部会	目標	「電子申請の件数」はイベント等の特異な要素によって実績値が左右されるので、「全体の申請の何割が電子申請だったか」のような「割合」を目標値とした方が、電子申請の普及度合いを把握するためには、良いのではないか。
3	第2部会	目標	林業、工業等の項目で実績値の統計数値が公表されていないため、評価ができなかった。この間がどうだったのかを分析しないと、次の10年どうしていくのか、チャレンジが本当に的確なのかが曖昧になってしまうので、「集計中」ではなく何らかの方法で明らかにすることが必要。